

令和5年7月26日
政策経営部
政策研究・調査課

世田谷区将来人口推計について

1 主旨

将来人口推計は区の計画策定や施策立案に際し、前提となる人口規模や年齢構成などの将来の推移を判断するための基礎資料として作成している。昨年度に続き、社会増減等のトレンドの変化を踏まえて推計を実施したので報告する。

2 将来人口推計の取扱いについて

令和6年度を初年度とする次期基本計画の基礎資料とする。

3 今後のスケジュール(予定)

令和5年8月9日 区ホームページで公表

世田谷区将来人口推計

令和5年7月

政策研究・調査課 政策研究担当

内容

I 人口の現状分析.....	1
1 人口動向.....	1
2 人口動態.....	4
II 将来人口推計の結果.....	16
1 推計方法.....	16
2 前回(令和4年7月)推計との変更点.....	17
3 将来人口推計結果.....	18
III 世田谷区将来人口推計に関する資料.....	25

※掲載の数値は、小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

I 人口の現状分析

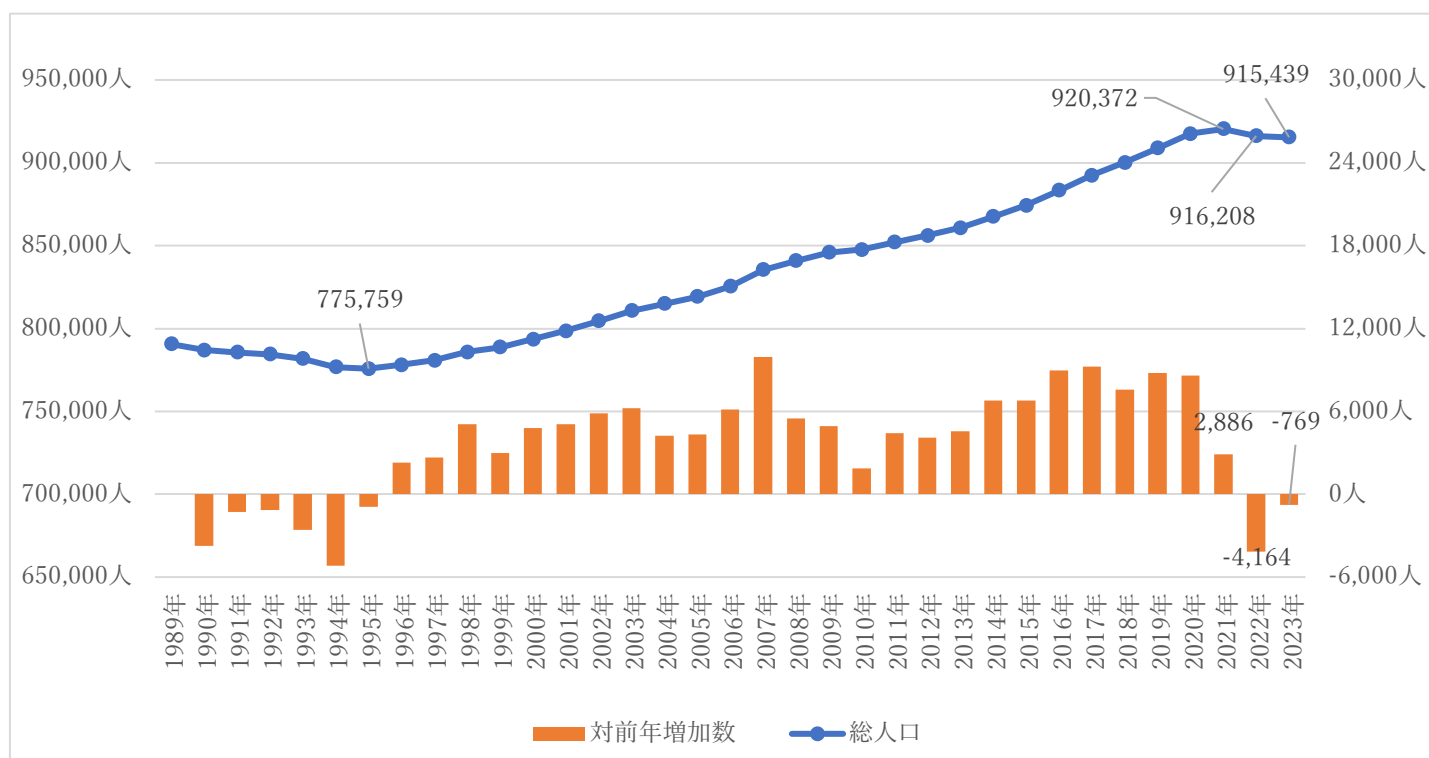
1 人口動向

(1) 総人口の推移

区の総人口は、平成7年(1995年)以降、令和3年(2021年)まで26年間一貫して増加し続け、この間に約14万人増加し、920,372人に到達したが、令和4年(2022年)からは減少に転じ、令和5年(2023年)は915,439人と減少傾向が続いている。

対前年増加数は、コロナ禍の影響により令和3年(2021年)以降2年連続で大きく減少したが、令和5年(2023年)は減少幅が少なくなっている。

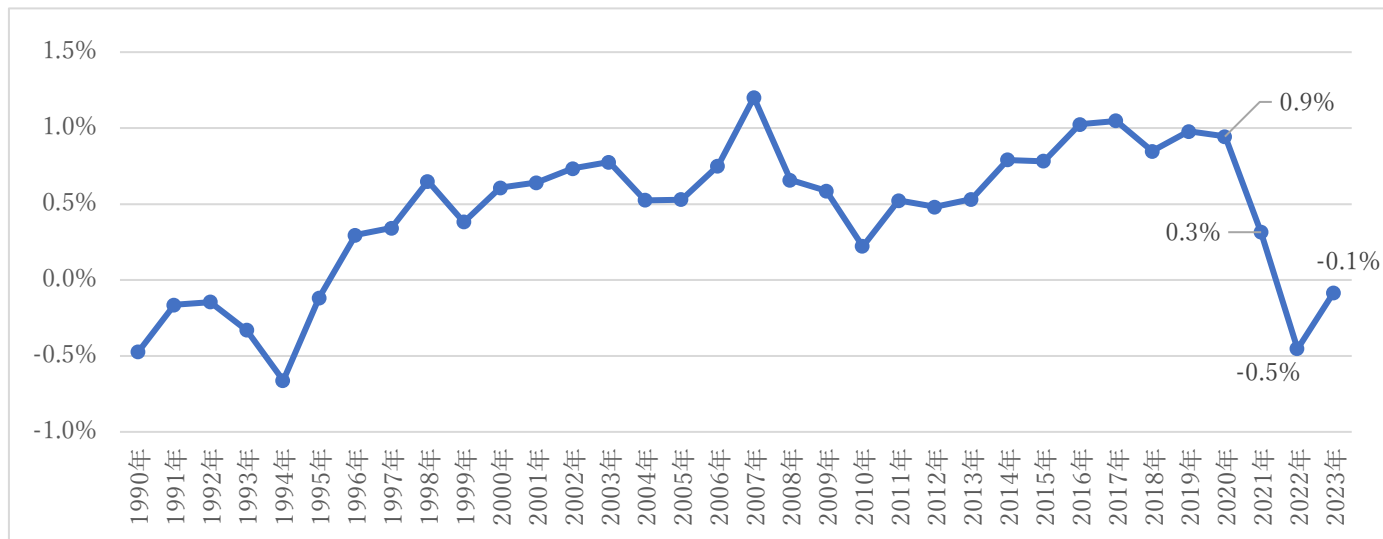
図表 1 総人口の推移



※各年1月1日現在の住民基本台帳登録者数
(平成24年(2012年)以前は外国人登録者数を足した数)

図表 2 より、バブル崩壊後の平成 8 年(1996 年)以降、増加率は平均して年 0.7%程度であったが、コロナ禍の影響より令和 3 年(2021 年)以降大きく落ち込んだ。令和 5 年(2023 年)は依然として減少しているものの、減少率は低下している。

図表 2 対前年増加率

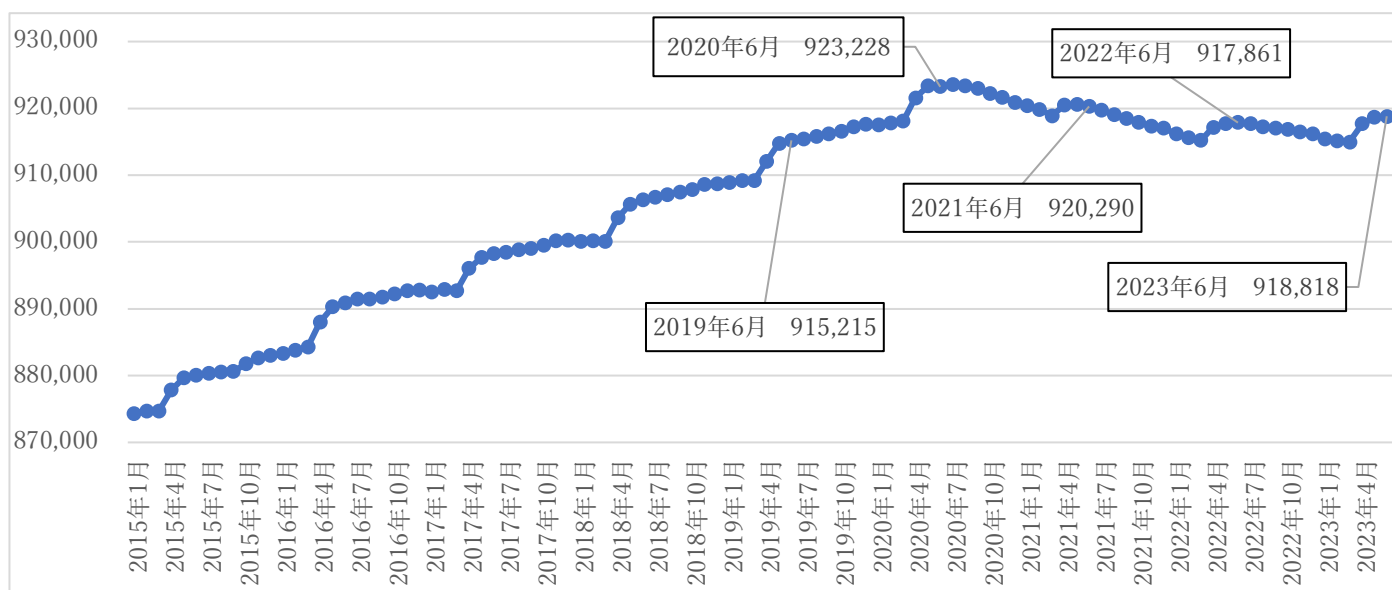


出典:住民基本台帳より作成

(2) 月別の推移

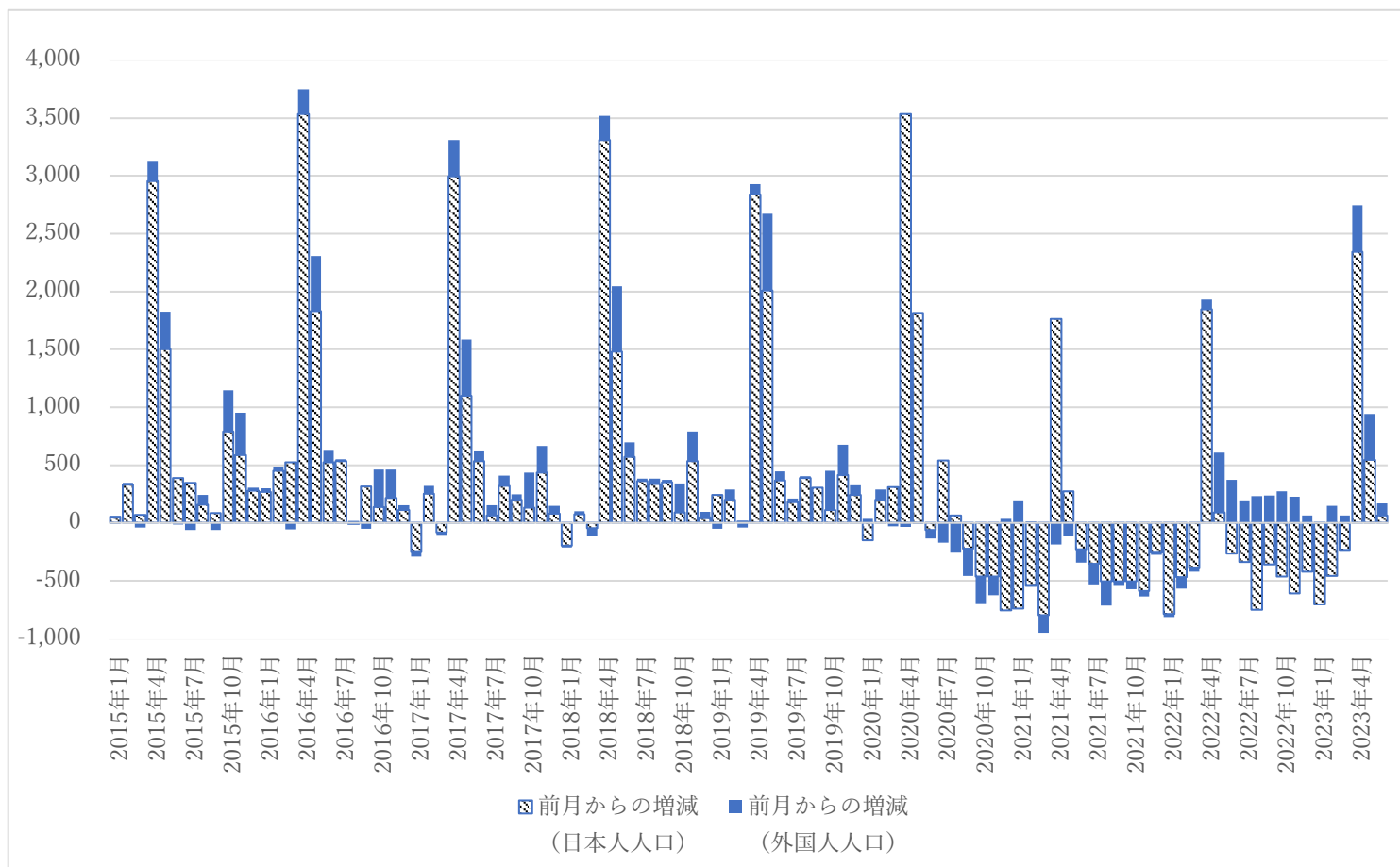
区の人口は、令和 2 年(2020 年)7 月をピークに減少傾向で推移しており、コロナ禍での減少傾向がより明確となった。令和 5 年(2023 年)は、3 月中の人口増加はコロナ禍前の令和元年(2019 年)並みとなっているが、4 月中、5 月中の人口増加は令和元年(2019 年)同時期の半数程度となっている。

図表 3 月別の総人口の推移



出典:住民基本台帳

図表 4 月別人口増減の推移(日本人人口・外国人人口)



出典:住民基本台帳

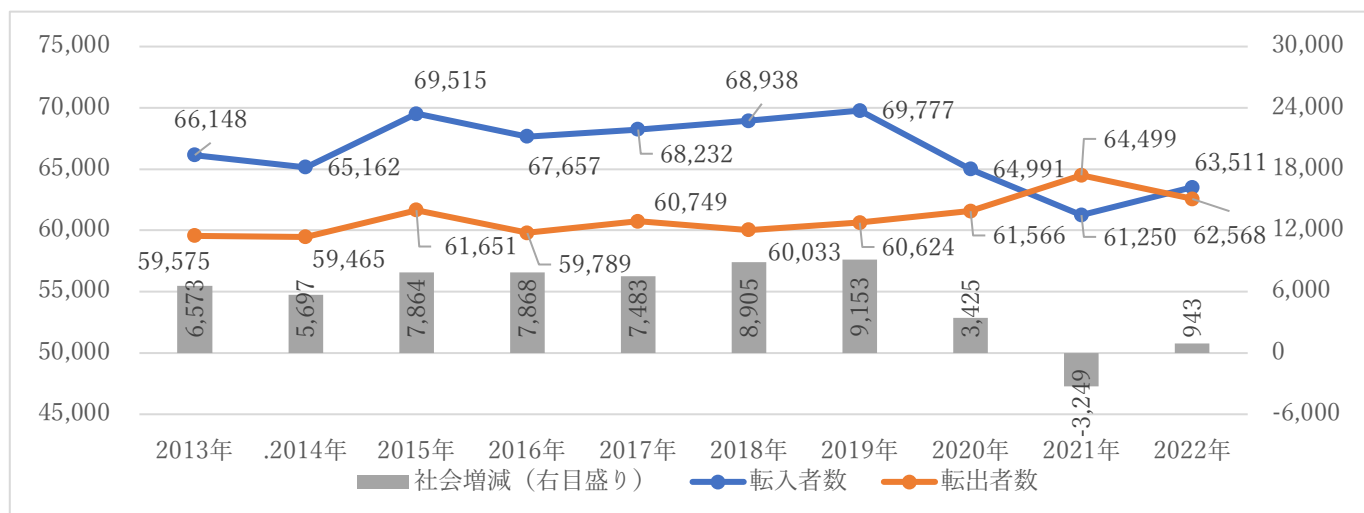
2 人口動態

(1) 人口動態の推移

平成7年(1995年)以降続いていた人口増加は、令和2年(2020年)に転入超過数が約6,000人縮小したことにより鈍化した。この転入超過の縮小は、転入の減少(約5,000人)と転出の増加(約1,000人)が要因である。

令和3年(2021年)は、さらに転入が減少(約3,700人)し、転出が増加(約3,000人)したため、転入者数が転出者数を下回る転出超過に転じた。令和4年(2022年)は転入者数が増加(約2,200人)し、転出者数が減少(約1,900人)したため再び転入超過に転じている。

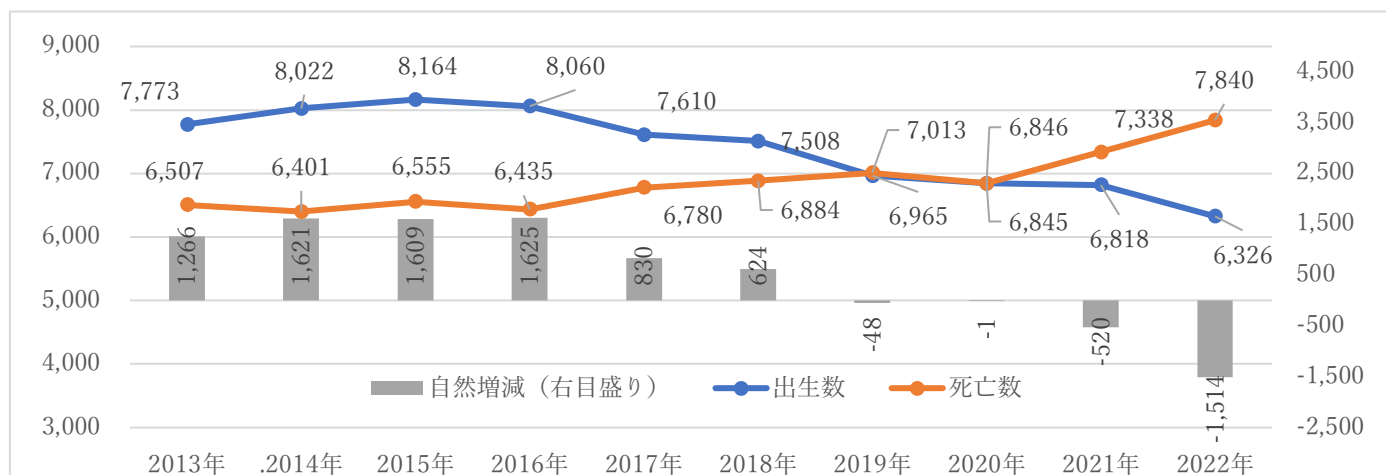
図表 5 転入・転出数の推移



出典:世田谷区統計書

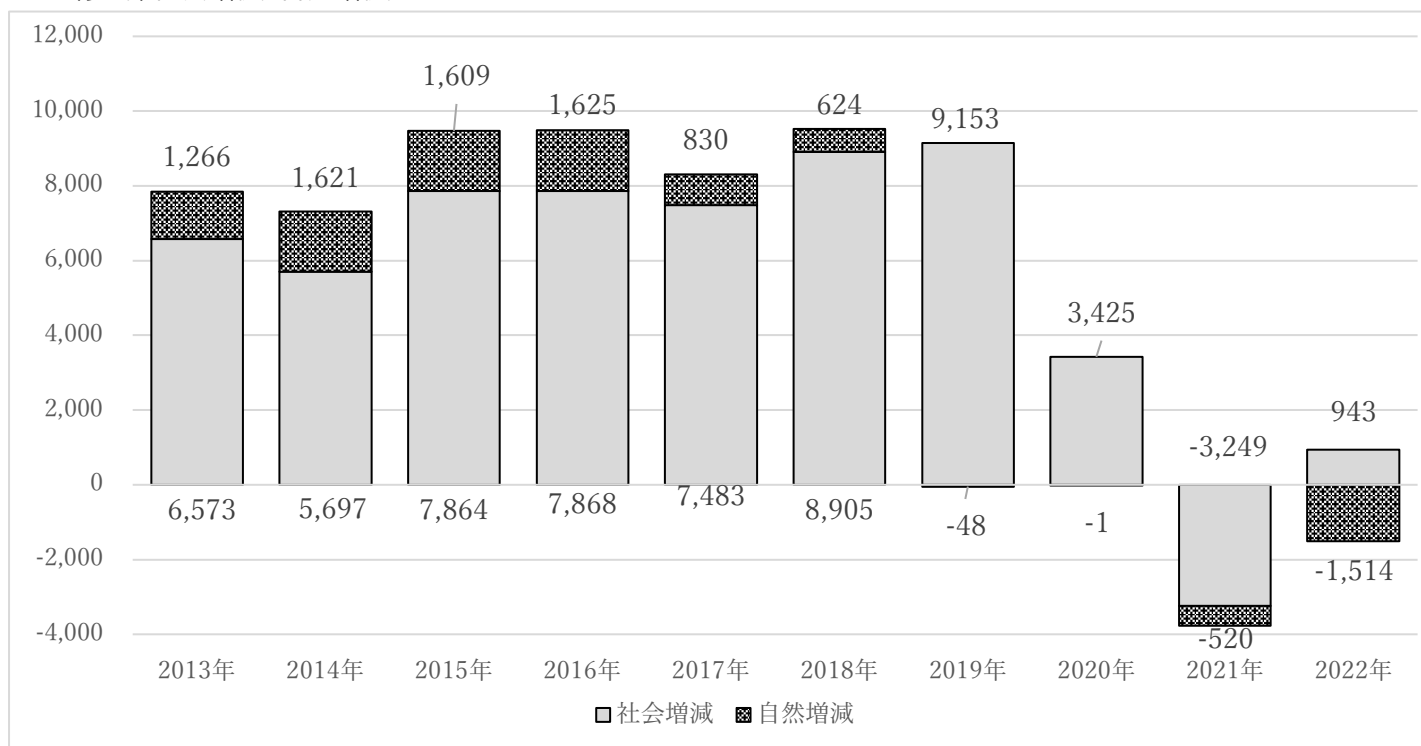
図表6のとおり出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向で推移している。令和2年(2020年)は死亡者数も減少したが、令和3年(2021年)、令和4年(2022年)は死亡者数が大きく増加(令和2年から令和4年にかけて約1,000人)した。

図表 6 出生・死亡数の推移



出典:世田谷区統計書

(参考)社会増減・自然増減



出典:世田谷区統計書 ※外国人を含む総人口

(参考)図表5および図表6の数値

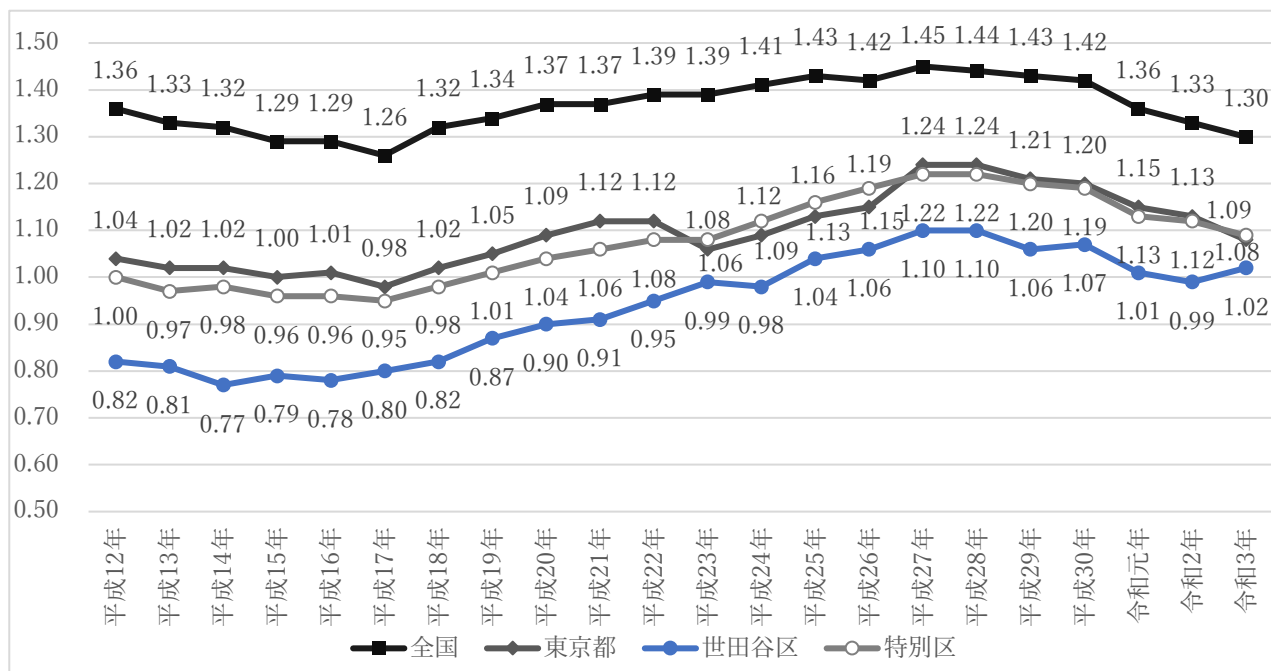
	転入数	転出数	社会増減	出生数	死亡数	自然増減
2013年	66,148	59,575	6,573	7,773	6,507	1,266
2014年	65,162	59,465	5,697	8,022	6,401	1,621
2015年	69,515	61,651	7,864	8,164	6,555	1,609
2016年	67,657	59,789	7,868	8,060	6,435	1,625
2017年	68,232	60,749	7,483	7,610	6,780	830
2018年	68,938	60,033	8,905	7,508	6,884	624
2019年	69,777	60,624	9,153	6,965	7,013	-48
2020年	64,991	61,566	3,425	6,845	6,846	-1
2021年	61,250	64,499	-3,249	6,818	7,338	-520
2022年	63,511	62,568	943	6,326	7,840	-1,514

出典:世田谷区統計書 ※外国人を含む総人口

(2) 合計特殊出生率

世田谷区の合計出生率(合計特殊出生率)は、全国や都全体、特別区と比べて低く、平成27年(2015年)ごろまで上昇傾向にあったが、その後、低下傾向に転じている(図表7)。

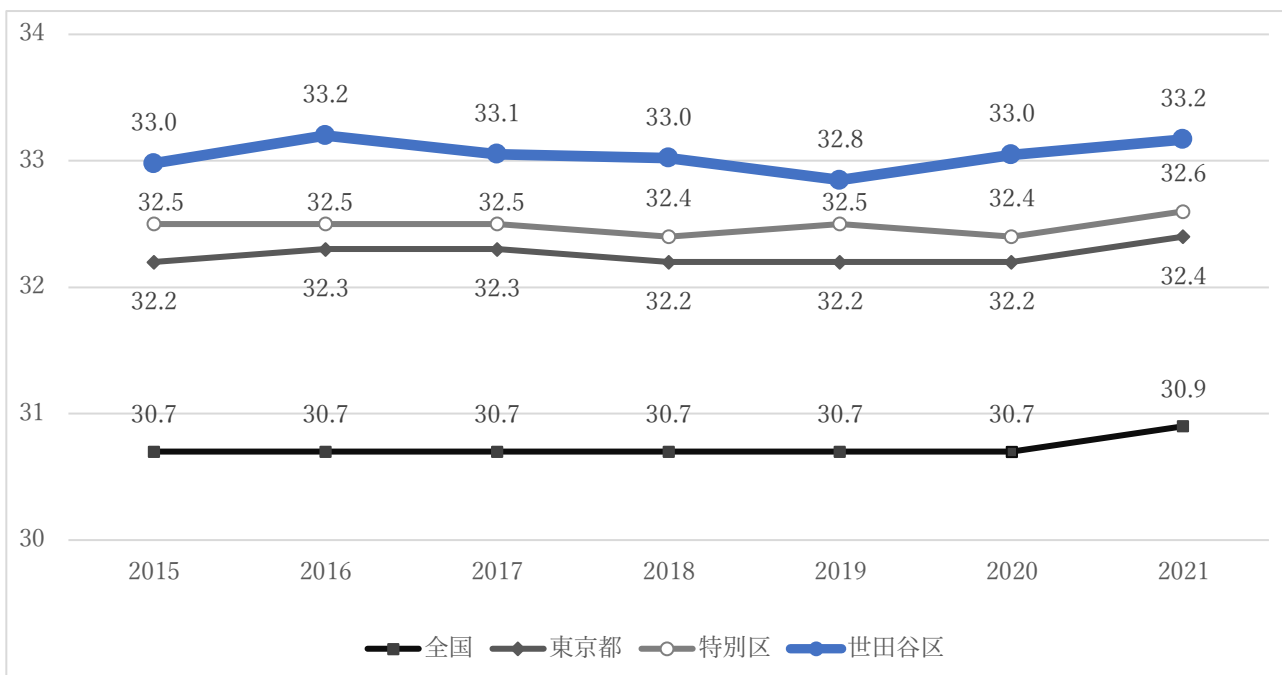
図表7 合計特殊出生率の推移



出典:人口動態調査結果(全国)、東京都福祉保健局人口動態統計(東京都、特別区)、世田谷区保健福祉総合事業概要(世田谷区)

図表8より、世田谷区の第一子出産時の母の平均年齢は、全国や都全体、特別区の平均と比べても高く、33歳前後で推移している。

図表8 第一子出産時の母の平均年齢推移



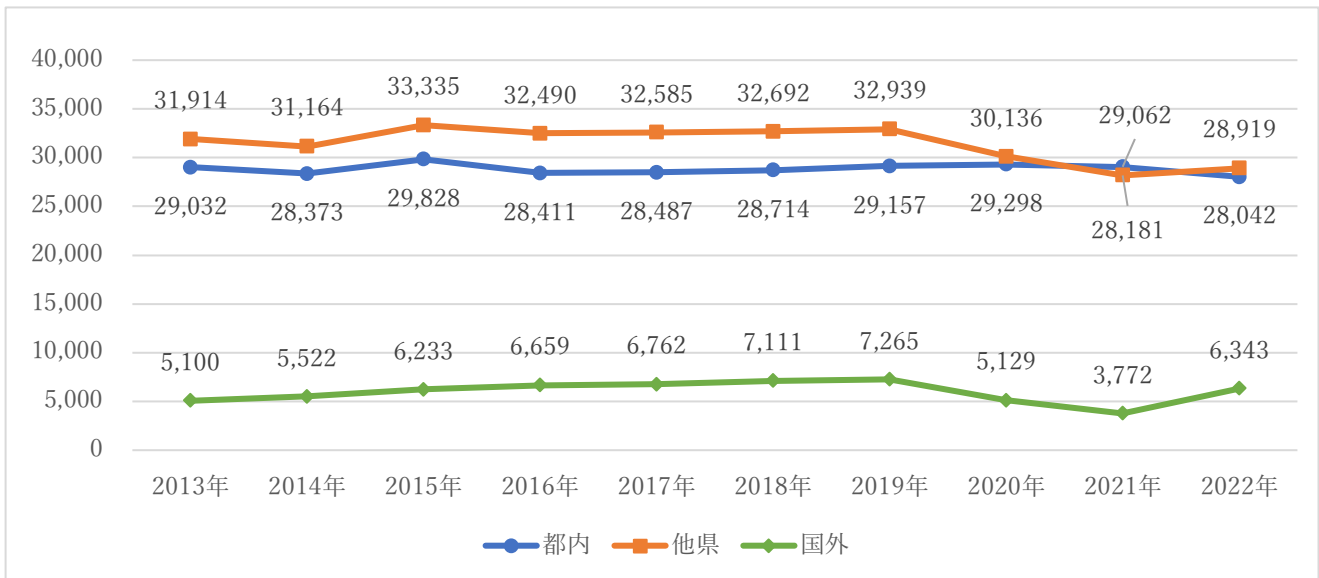
出典:人口動態調査人口動態統計、地域保健集計表

(3) 移動

令和2年(2020年)から令和3年(2021年)にかけて減少した他県からの転入者数は、令和4年(2022年)に増加となった。一方、令和3年まで増加していた他県への転出者数は、令和4年(2022年)に減少した(図表 9)。

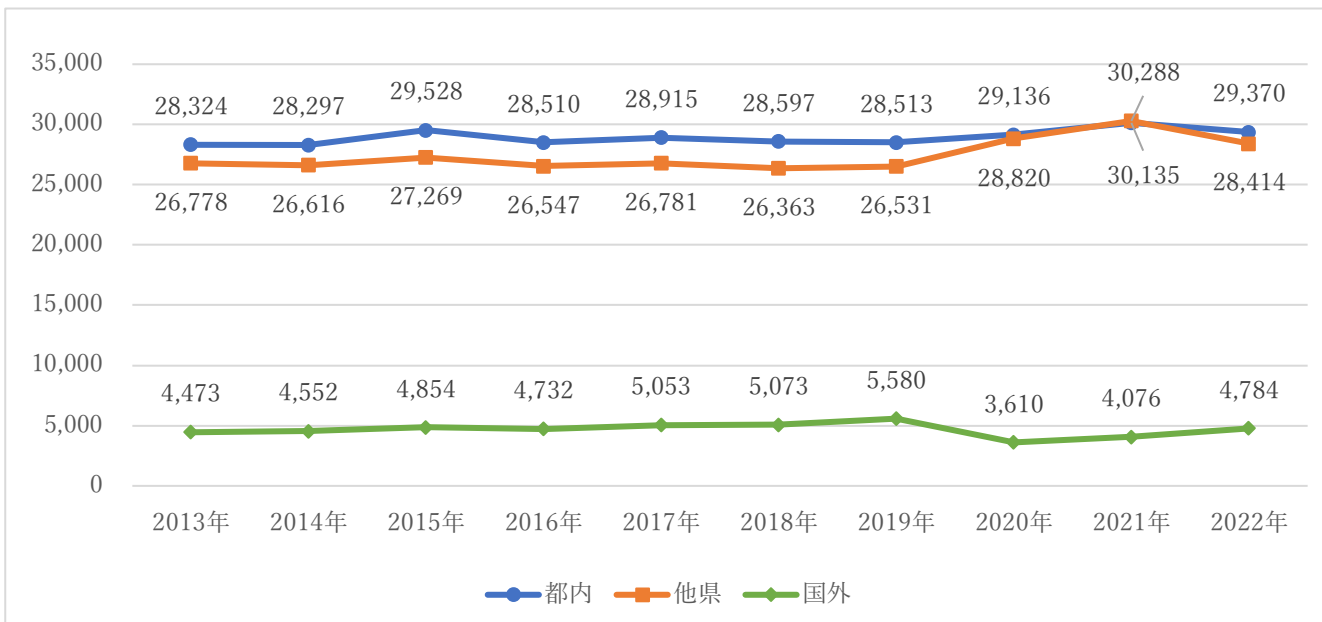
都内からの転入者数は、令和2年(2020年)以降、増加したが、令和4年(2022年)に減少に転じている。国外との移動については、コロナ禍による入国制限の実施等の影響より転入は令和2年(2020年)以降、減少したが、令和4年(2022年)は増加している。国外への転出は微増が続いている(図表 10)。

図表 9 転入者数



出典:世田谷区統計書

図表 10 転出者数



出典:世田谷区統計書

(参考)図表 9 および図表 10 の数値

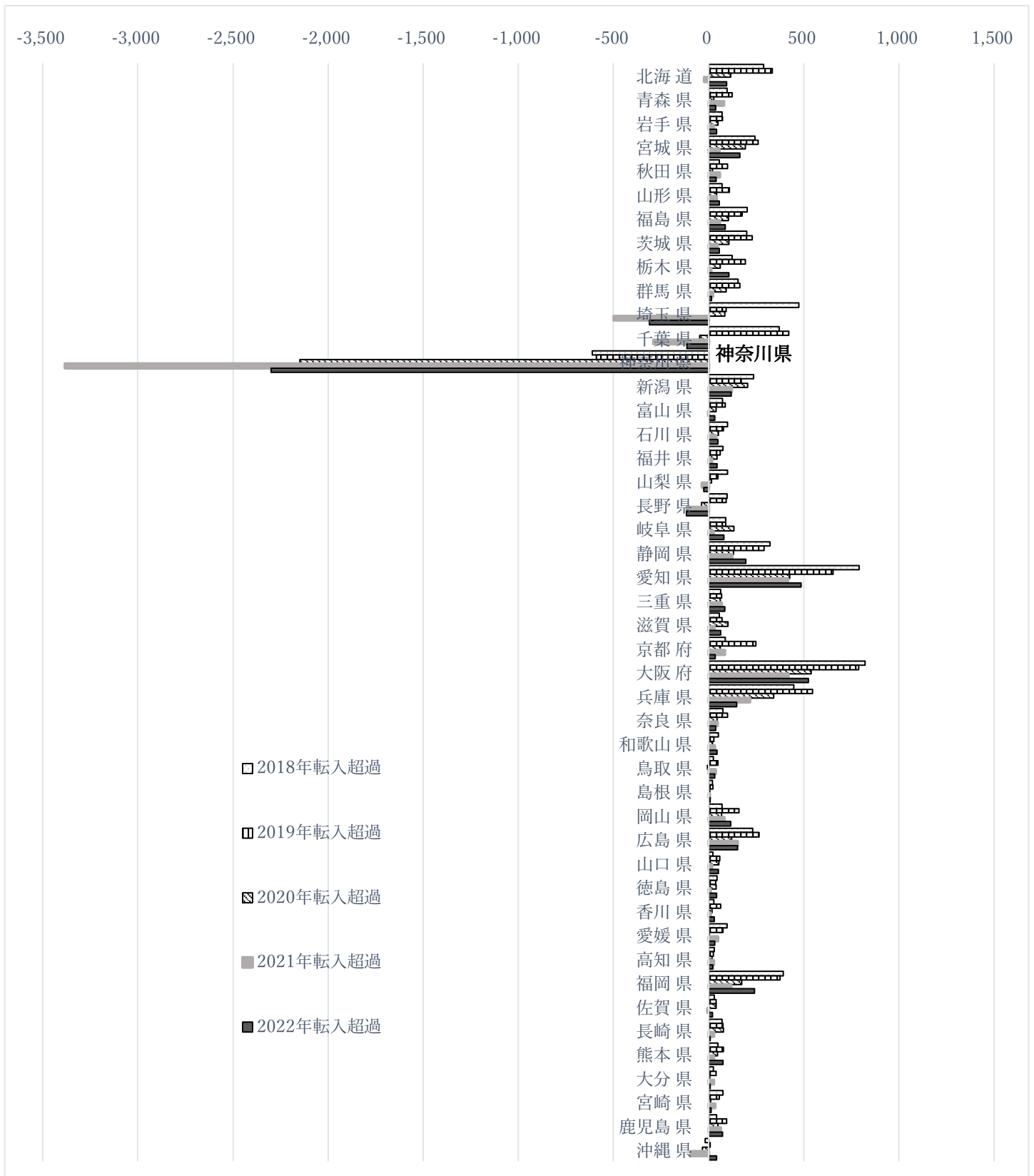
	転入				転出		
	都内	他県	国外	その他	都内	他県	国外
2013年	29,032	31,914	5,100	102	28,324	26,778	4,473
2014年	28,373	31,164	5,522	103	28,297	26,616	4,552
2015年	29,828	33,335	6,233	119	29,528	27,269	4,854
2016年	28,411	32,490	6,659	97	28,510	26,547	4,732
2017年	28,487	32,585	6,762	398	28,915	26,781	5,053
2018年	28,714	32,692	7,111	421	28,597	26,363	5,073
2019年	29,157	32,939	7,265	416	28,513	26,531	5,580
2020年	29,298	30,136	5,129	428	29,136	28,820	3,610
2021年	29,062	28,181	3,772	235	30,135	30,288	4,076
2022年	28,042	28,919	6,343	207	29,370	28,414	4,784

出典：世田谷区統計書 ※外国人を含む総人口

※転入-その他は、住所設定、中長期在留者資格取得等を示す。

世田谷区への転入超過を道府県別に見たものが図表 11 である。令和3年に大きく拡大した神奈川県・埼玉県・千葉県・沖縄県への転出超過は、令和4年度になって縮小している。また、北海道・愛知県・大阪府・福岡県など多くの道府県で、転入超過が拡大している。

図表 11 世田谷区への転入超過数(道府県別)



出典：総務省 住民基本台帳人口移動報告年報より作成

東京圏の市区町村別に転入超過の変化を分析した。これまでも、世田谷区は近隣の市区との間での転入が多く、おおむね都心側からは転入超過、郊外側へ転出超過という傾向を示していた。

令和4年(2022年)は、令和3年(2021年)に引き続き郊外側(横浜市・川崎市や東京都市部)への移動が大きい。

2022年に世田谷区への転入超過が多かった自治体(上位10市区)

※東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県内の市区町村で作成

		【転入超過】 2021年	【転入超過】 2022年	【転入超過】 2021-2022年 増加数
1	渋谷区	390	394	4
2	目黒区	1,092	380	-712
3	品川区	312	234	-78
4	港区	295	197	-98
5	新宿区	128	176	48
6	文京区	-60	114	174
7	江戸川区	129	93	-36
8	杉並区	-22	63	85
9	千代田区	19	55	36
10	足立区	22	46	24

出典:総務省 住民基本台帳人口移動報告年報より作成

2022年に世田谷区への転入超過が少なかった自治体(上位10市区)

※東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県内の市区町村で作成

		【転入超過】 2021年	【転入超過】 2022年	【転入超過】 2021-2022年 増加数
1	川崎市	-1,579	-1,039	540
2	調布市	-728	-634	94
3	横浜市	-669	-504	165
4	狛江市	-340	-372	-32
5	町田市	-273	-233	40
6	藤沢市	-275	-224	51
7	さいたま市	-208	-221	-13
8	茅ヶ崎市	-159	-172	-13
9	多摩市	-74	-138	-64
10	稲城市	-125	-123	2

出典:総務省 住民基本台帳人口移動報告年報より作成

2021年から2022年において世田谷区への転入超過が増加した自治体(上位10市区)

※東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県内の市区町村で作成

		【転入超過】 2021年	【転入超過】 2022年	【転入超過】 2021-2022年 増加数
1	川崎市	-1,579	-1,039	540
2	文京区	-60	114	174
3	横浜市	-669	-504	165
4	三鷹市	-280	-117	163
5	日野市	-133	18	151
6	川口市	-91	37	128
7	相模原市	-123	-16	107
8	練馬区	-198	-95	103
9	調布市	-728	-634	94
10	府中市	-198	-109	89

出典:総務省 住民基本台帳人口移動報告年報より作成

2021年から2022年において世田谷区への転入超過が減少した自治体(上位10市区)

※東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の市区町村で作成

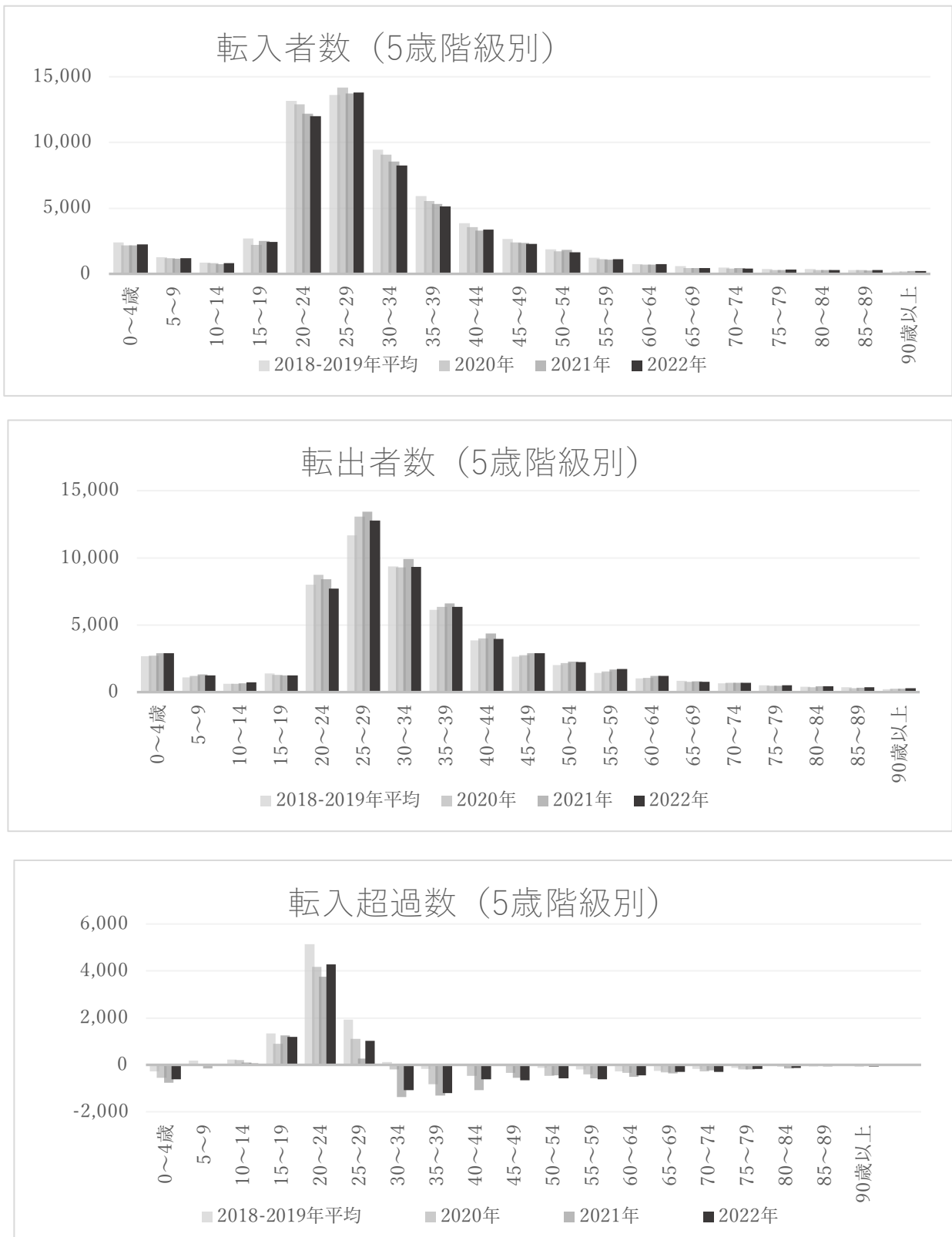
		【転入超過】 2021年	【転入超過】 2022年	【転入超過】 2021-2022年 増加数
1	目黒区	1,092	380	-712
2	大田区	24	-94	-118
3	豊島区	92	-24	-116
4	浦安市	110	-4	-114
5	港区	295	197	-98
6	小平市	6	-90	-96
7	中野区	119	37	-82
8	品川区	312	234	-78
9	多摩市	-74	-138	-64
10	八王子市	-51	-107	-56

出典:総務省 住民基本台帳人口移動報告年報より作成

転入者と転出者を年齢(5歳階級別)に見たものが図表 12である。

令和4年(2022年)は、20歳代で転入超過数が増加、30歳代～40歳代前半では転出超過数が減少している。

図表 12 年齢別転入・転出の年次推移



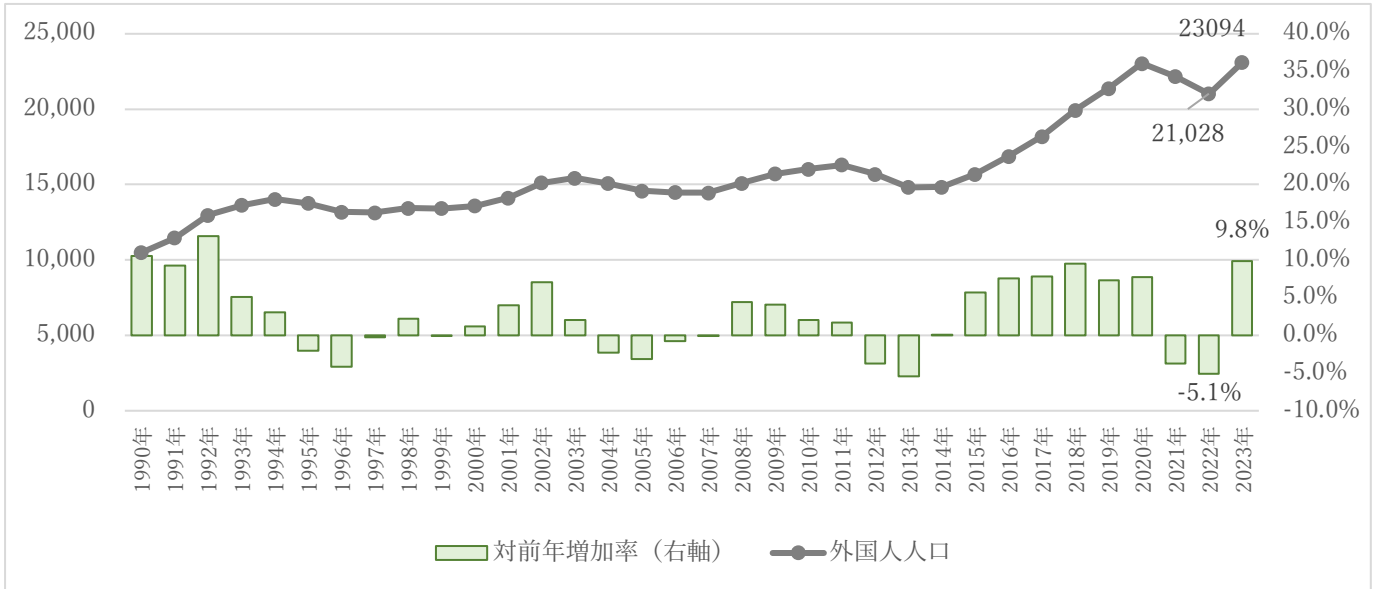
出典:総務省 住民基本台帳人口移動報告年報より作成

(4) 外国人人口

外国人人口は、平成 27 年(2015 年)以降、令和2年(2020 年)まで高い増加傾向を示していた。

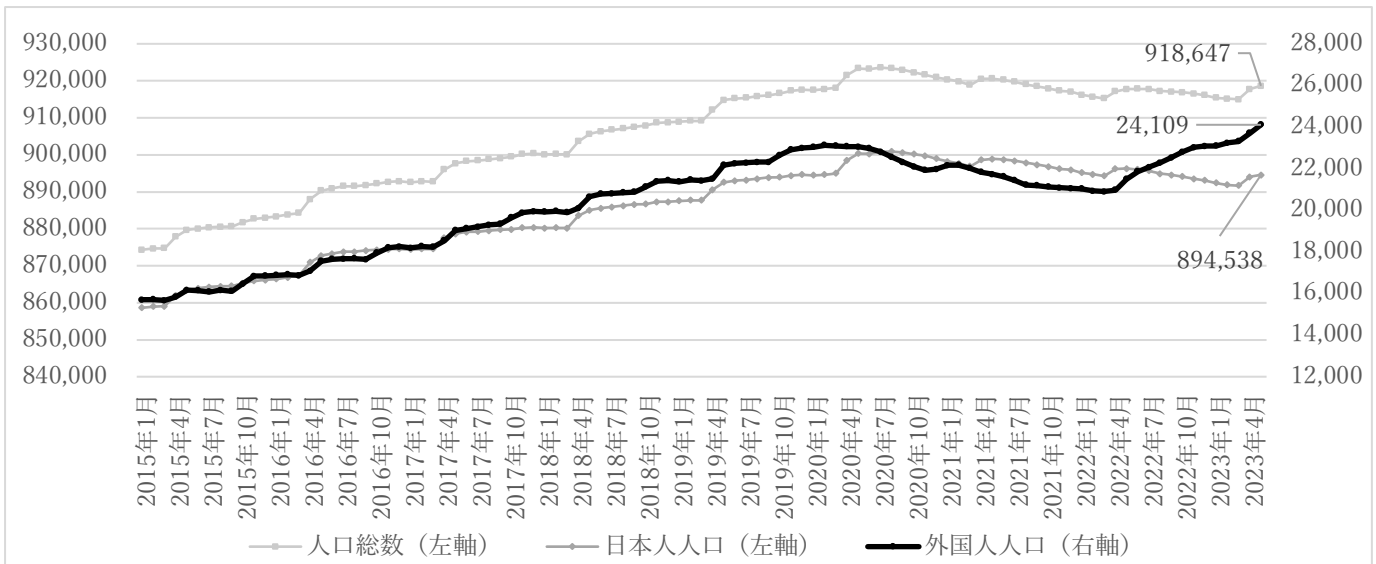
コロナ禍以降、いったん減少したが、入国制限が緩和された令和 4 年(2022 年)4 月以降は再び増加に転じた(図表 13、14)。

図表 13 外国人人口 年次の推移



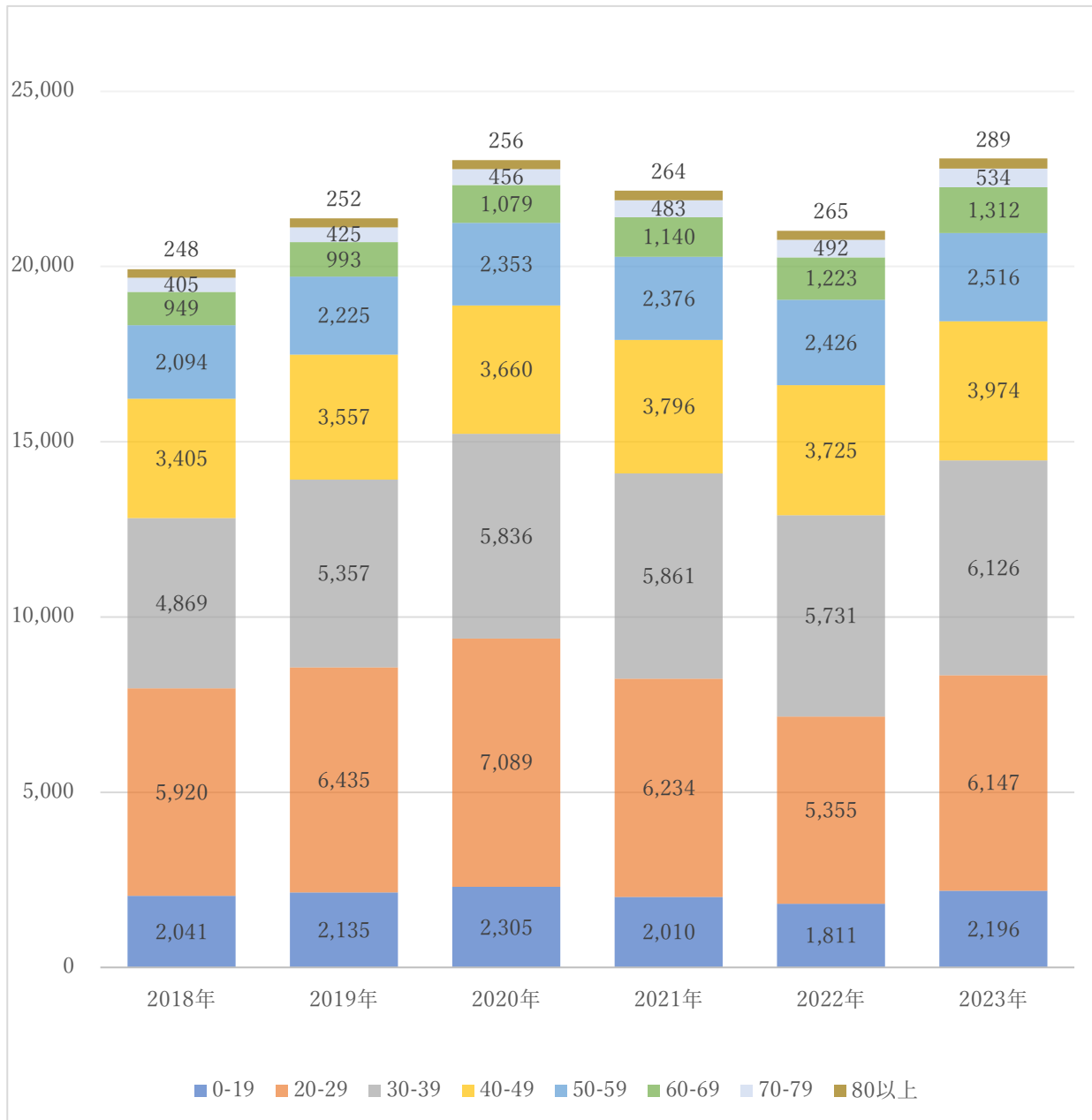
出典:住民基本台帳

図表 14 外国人人口 月別の推移(2015 年 1 月~2023 年 5 月)



出典:住民基本台帳

図表 15 年齢構成の推移(外国人人口)

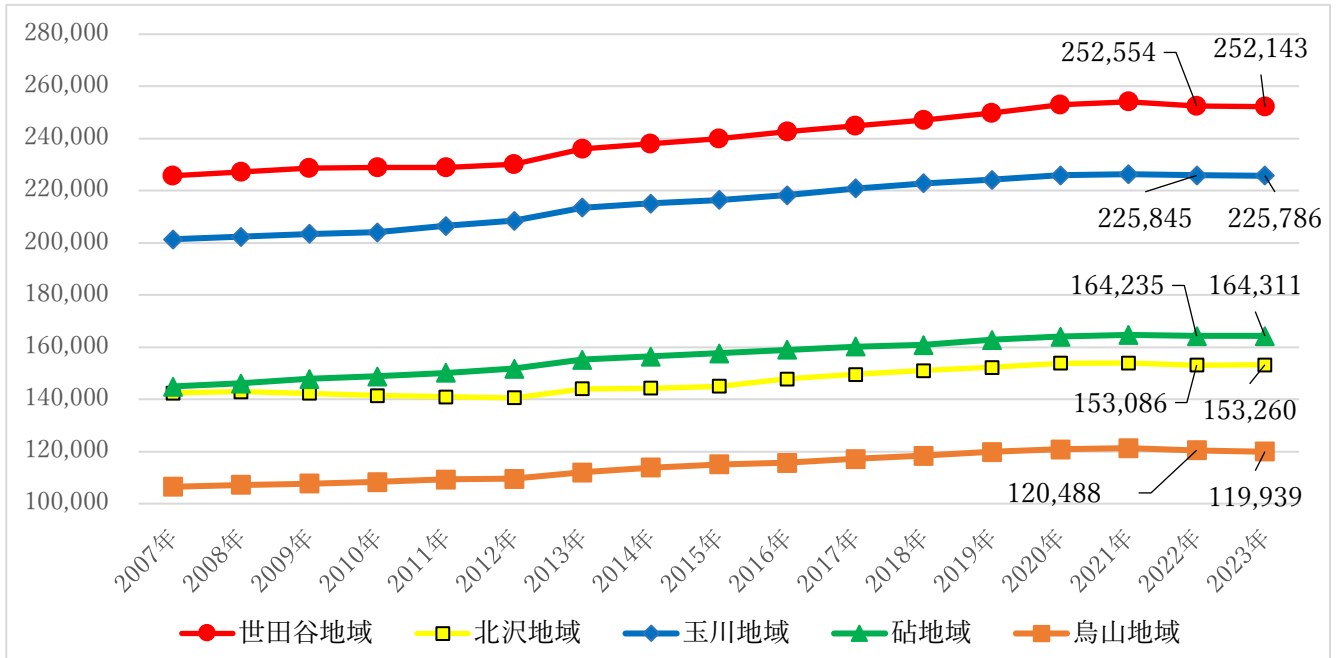


出典:住民基本台帳

(5) 地域別人口の推移

各地域とも一貫して令和3年(2021年)まで増加傾向が続いていたが、令和4年(2022年)は減少に転じている。令和5年(2023年)は、世田谷地域・玉川地域・烏山地域では引き続き減少傾向にあるが、北沢地域および砧地域では増加に転じている(図表16、17)。

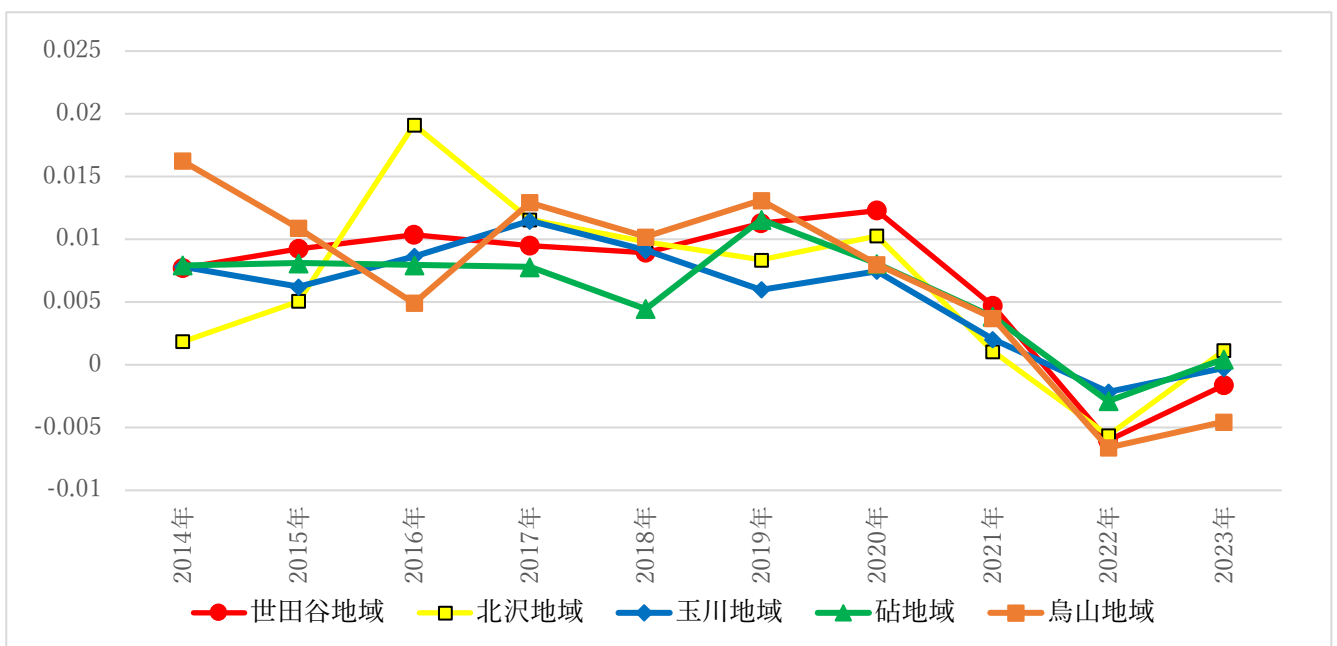
図表 16 5地域別人口の推移(2007年～2023年)



※各年1月1日現在の住民基本台帳登録者数

※住民基本台帳の一部改正(平成24年(2012年)7月9日)により、平成25年(2013年)より外国人を含んだ数値を掲載。

図表 17 5地域別人口増加率の推移(2014～2022年)



出典:住民基本台帳より作成

Ⅱ 将来人口推計の結果

1 推計方法

推計期間 令和6年(2024年)～令和30年(2048年)

(2)令和5年(2023年)1月1日の住民基本台帳人口(外国人を含む)

(3)推計方法 コーホート要因法を用いる。

(4)変動要因(出生・死亡・移動)の設定

	要素	算出方法	見通し
①【出生】	子ども女性比 (15-49歳の女性 に対する0歳の子 ども数の比率)	住民基本台帳各歳別データの 令和5年(2023年)1月1日の値	将来にわたり同じ値で推移すると 仮定する。令和4年中の出生の状況 が続くものとした。
②【死亡】	生残率	世田谷区の生命表(5歳階級)及 び東京都の生命表(各歳)から 算出	将来にわたり同じ値で推移すると 仮定する。
③【移動】	純移動率	平成30年(2018年)から令和4年 (2022年)の5年間の純移動率の 平均値	感染症の収束後も地方移住志向の 高まりはある程度続くものと仮定 した。

(5)外国人総数の推移(参考値)

各年別人口でコーホート変化率法を用い、平成30年(2018年)から令和4年(2022年)の5年間の変化率の平均を用いる。

(6)地域別の推計

区全域と同様に、(4)の方法で地域別に出生、移動の仮定値を設定する。ただし、死亡は区全域の生残率を用いる。また、各地域の推計値の合計が、区全域の総数と一致するよう補正を加える。

2 前回(令和4年7月)推計との変更点

① 変動要因の設定

【出生】

	令和4年度	令和5年度
将来値の設定	過去3年の子ども女性比の平均値	過去1年の子ども女性比の値

【死亡】

	令和4年度	令和5年度
使用するデータ	平成27年国勢調査に基づく都道府県別生命表(東京都)と、市区町村別生命表(世田谷区)	令和2年国勢調査に基づく都道府県別生命表(東京都)と、市区町村別生命表(世田谷区)

【移動】

	令和4年度	令和5年度
将来値の設定	過去3年間の純移動率の平均値	過去5年間の移動率の平均値

② 外国人総数の推計

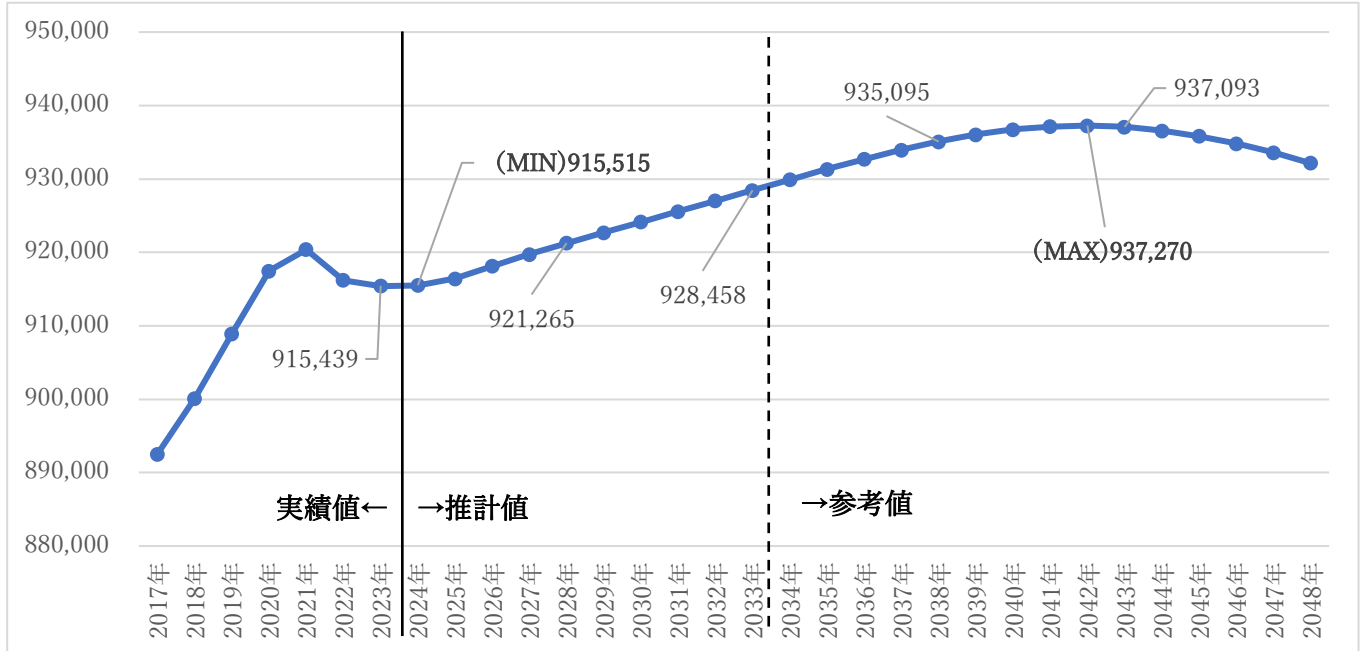
	令和4年度	令和5年度
将来値の設定	平成31年(2019年)から令和3年(2021年)の過去3年間の変化率の平均値	平成30年(2018年)から令和4年(2022年)の過去5年間の変化率の平均値

3 将来人口推計結果

(1) 総人口

令和6年(2024年)より人口増に転じ、増加傾向が継続する。区の人口は、令和23年(2042年)の937,270人をピークに減少に転じる。

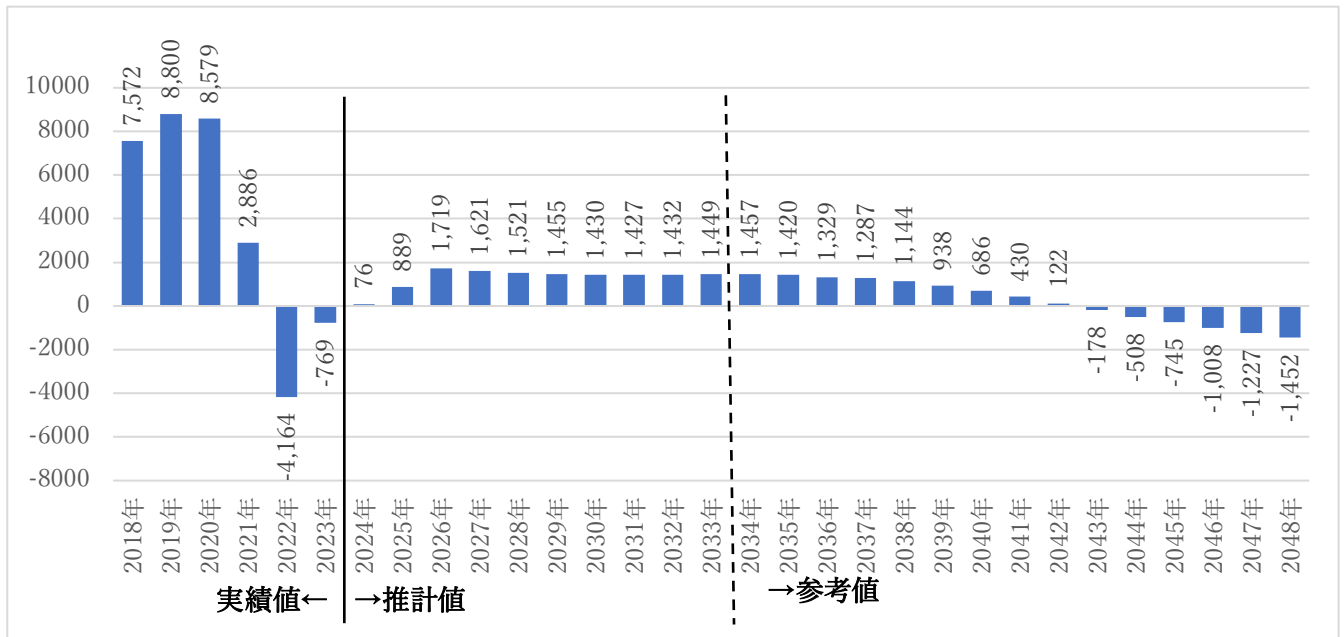
図表 18 推計結果(外国人を含む総人口の推移)



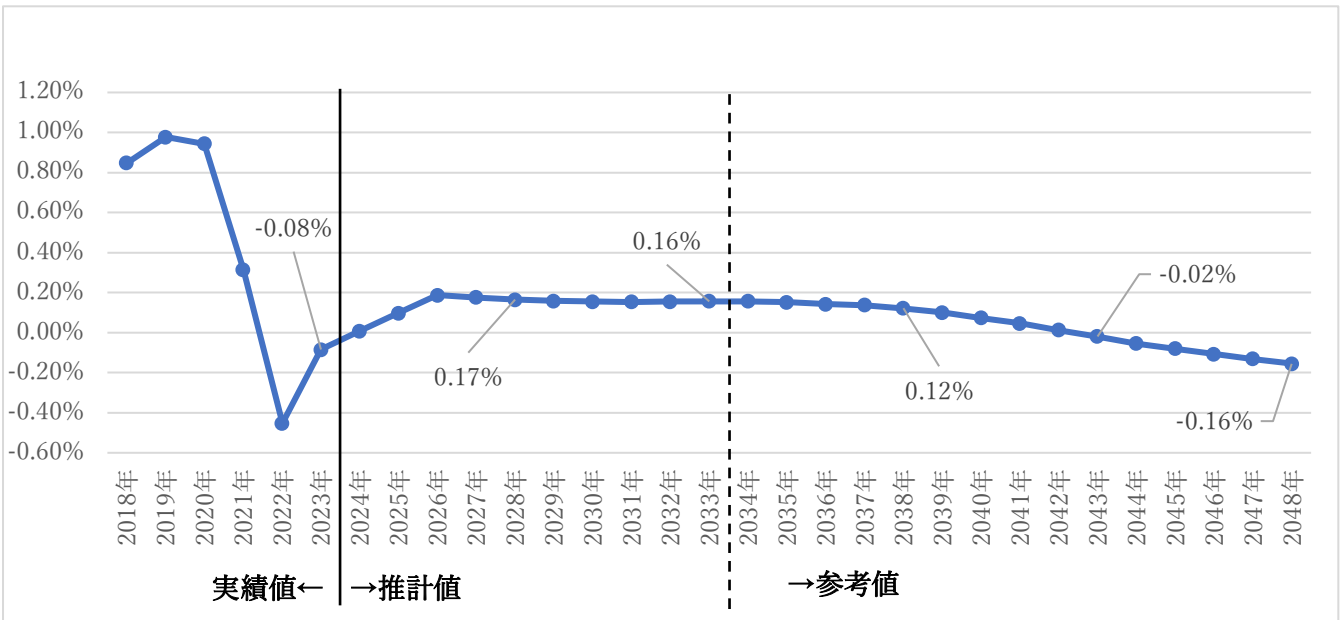
	令和5年 (2023年)	令和10年 (2028年)	令和15年 (2033年)	令和20年 (2038年)	令和25年 (2043年)	最大値	最小値
総人口	915,439 (実績値)	921,265 (5,826)	928,458 (13,019)	935,095 (19,656)	937,093 (21,654)	<2042年> 937,270 (21,831)	<2024年> 915,515 (76)

※()内の数字は令和5年(2023年)との差分を記載

図表 19 推計結果における対前年人口の増加数

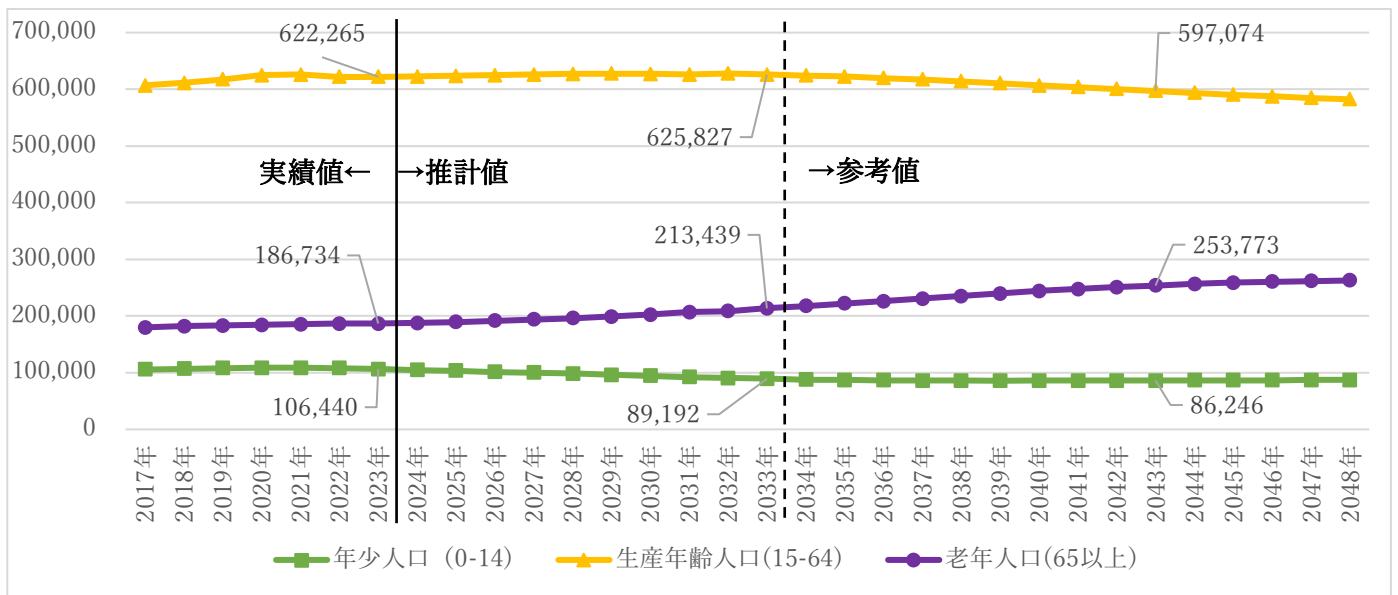


図表 20 推計結果における対前年人口の増加率



(2) 年齢3区分別人口

図表 21 年齢3区分別総人口の推移



	令和 5 年 (2023 年)	令和 15 年 (2033 年)	令和 25 年 (2043 年)	最大値	最小値
年少人口 (0 歳～14 歳)	106,440 (実績値)	89,192 (-17,248)	86,246 (-20,194)	<2024 年> 104,868 (-1,572)	<2039 年> 85,771 (-20,669)
生産年齢人口 (15 歳～64 歳)	622,265 (実績値)	625,827 (3,562)	597,074 (-25,191)	<2032 年> 627,864 (5,599)	<2048 年> 582,362 (-39,903)
老年人口 (65 歳以上)	186,734 (実績値)	213,439 (26,705)	253,773 (67,039)	<2048 年> 262,711 (75,977)	<2024 年> 187,943 (1,209)

※()内の数字は令和 5 年(2023 年)との差分を記載

年齢3区分別人口比率

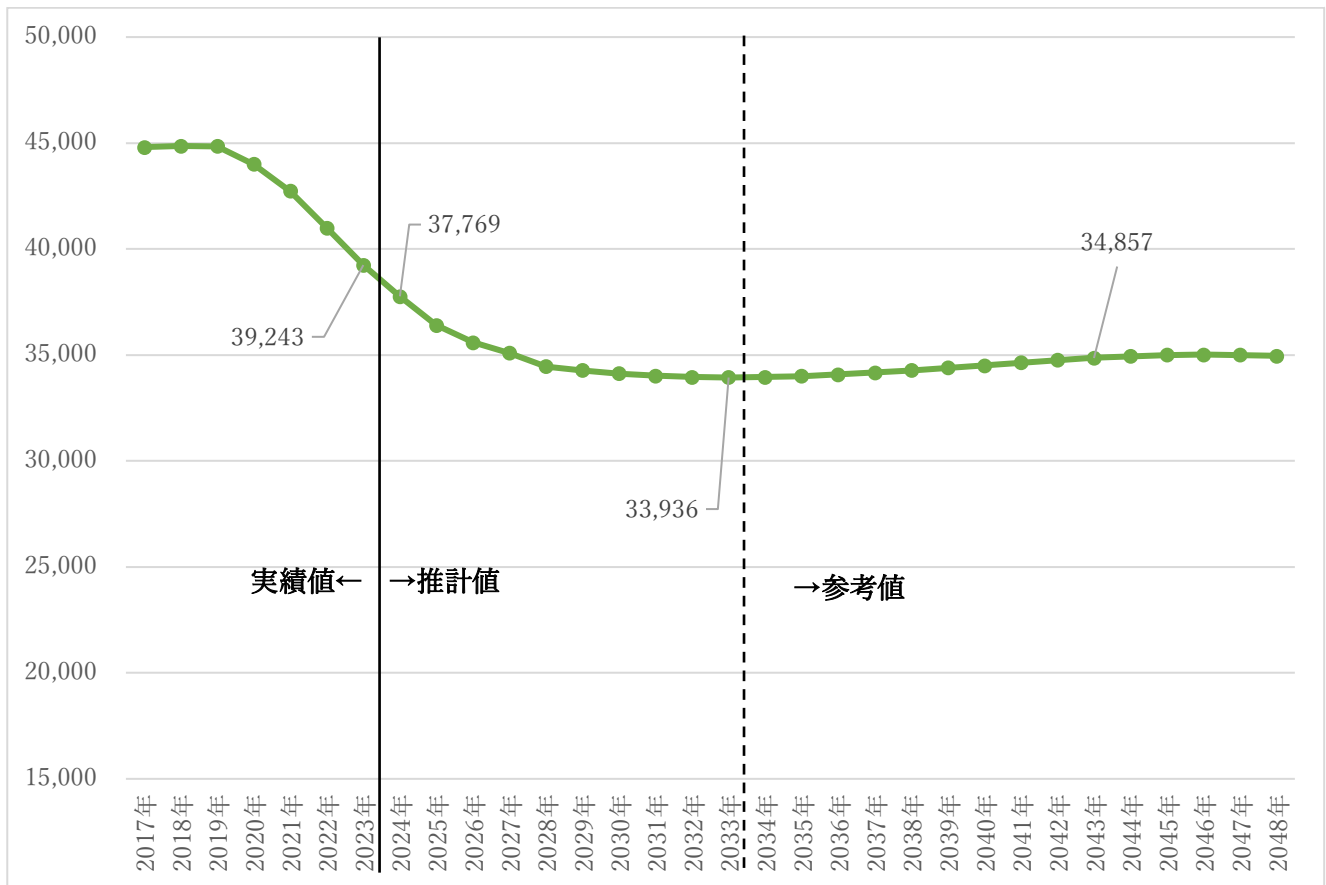
	令和 5 年 (2023 年)	令和 10 年 (2028 年)	令和 15 年 (2033 年)	令和 20 年 (2038 年)	令和 25 年 (2043 年)	令和 30 年 (2048 年)
0-14 歳	12%	11%	10%	9%	9%	9%
15-64 歳	68%	68%	67%	66%	64%	62%
65 歳以上	20%	21%	23%	25%	27%	28%

※小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が 100%にならない場合がある。

(3) 特定年齢人口

① 就学前人口(0～5歳)

図表 22 就学前人口(0～5歳)の推移

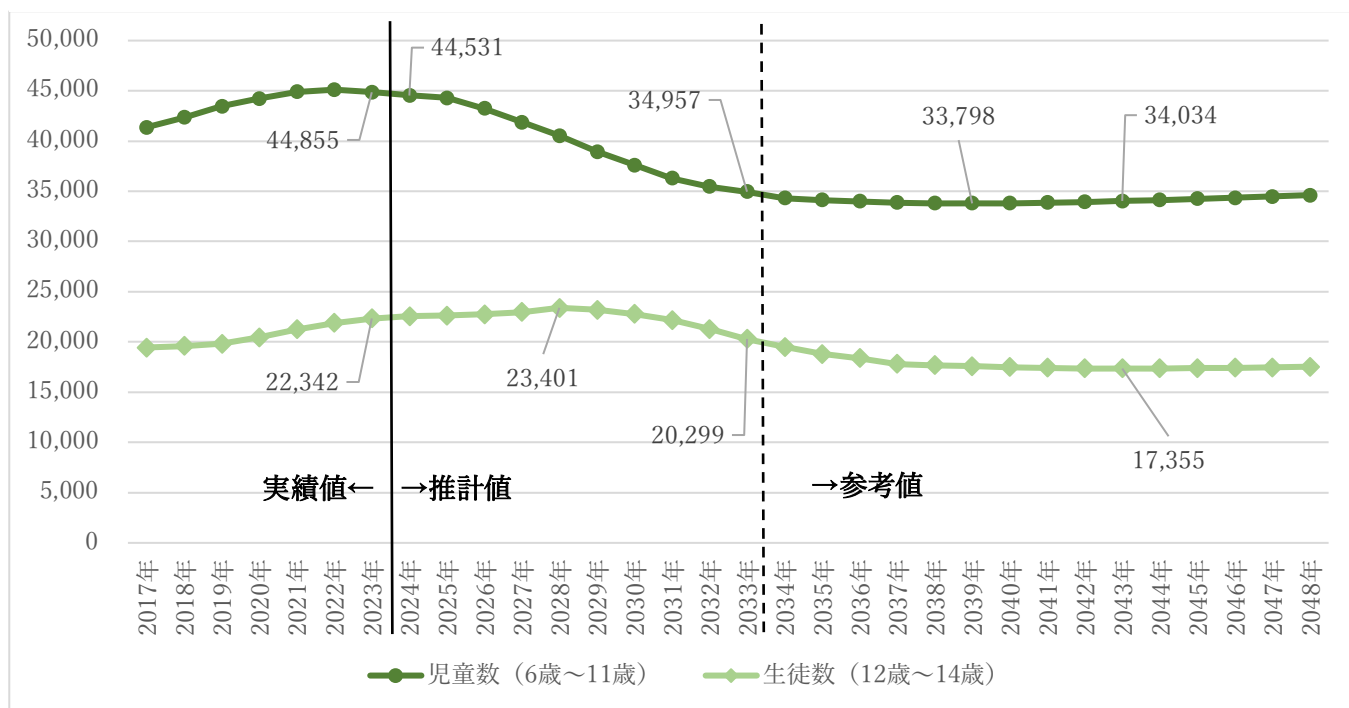


	令和 5 年 (2023 年)	令和 15 年 (2033 年)	令和 25 年 (2043 年)	最大値	最小値
就学前人口 (0 歳～5 歳)	39,243 (実績値)	33,936 (-5,307)	34,857 (-4,386)	<2024 年> 37,769 (-1,474)	<2033 年> 33,936 (-5,307)

※()内の数字は令和 5 年(2023 年)との差分を記載

② 児童数(6～11歳)・生徒数(12～14歳)

図表 23 児童数(6～11歳)および生徒数(12～14歳)の推移

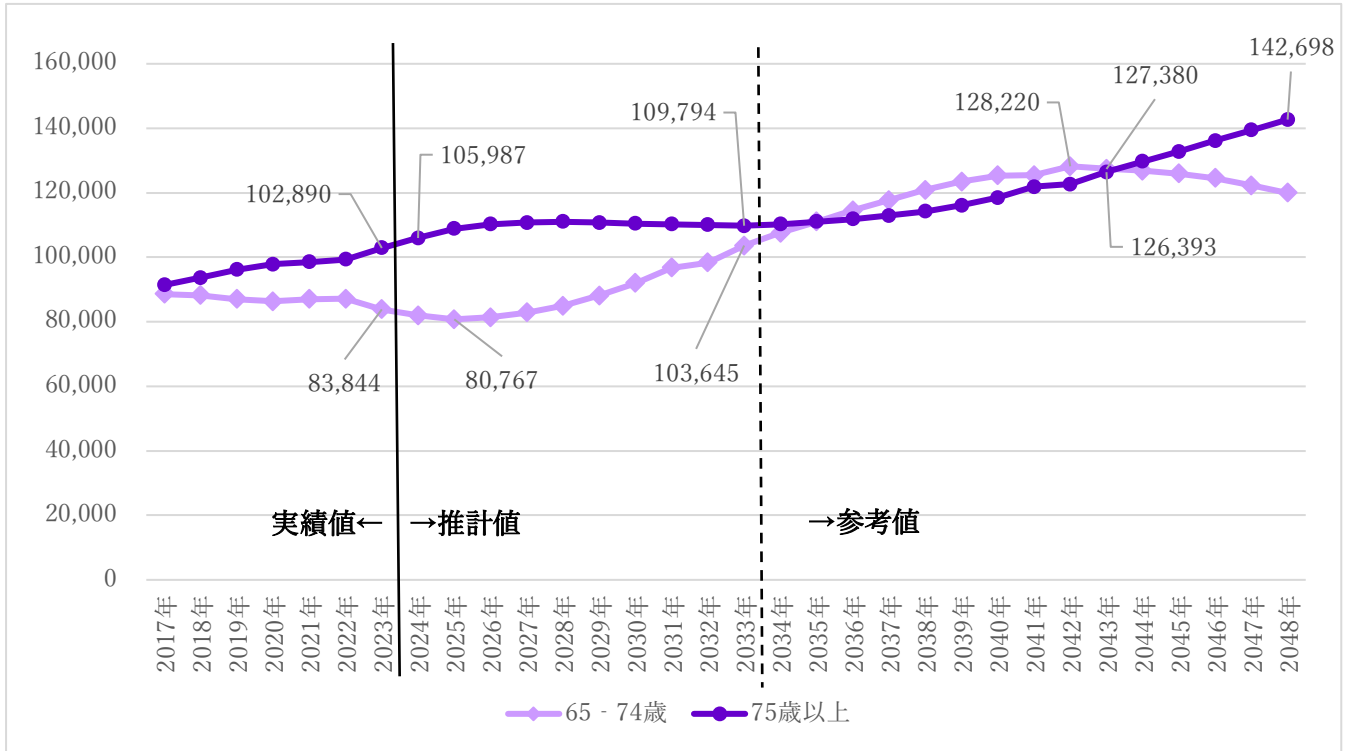


	令和5年 (2023年)	令和15年 (2033年)	令和25年 (2043年)	最大値	最小値
児童数 (6歳～11歳)	44,855 (実績値)	34,957 (-9,898)	34,034 (-10,821)	<2024年> 44,531 (-324)	<2039年> 33,798 (-11,057)
生徒数 (12歳～14歳)	22,342 (実績値)	20,299 (-2,043)	17,355 (-4,987)	<2028年> 23,401 (1,059)	<2043年> 17,355 (-4,987)

※()内の数字は令和5年(2023年)との差分を記載

③ 前期高齢者(65歳～74歳)・後期高齢者(75歳以上)

図表 24 前期高齢者(65歳～74歳)および後期高齢者(75歳以上)人口の推移

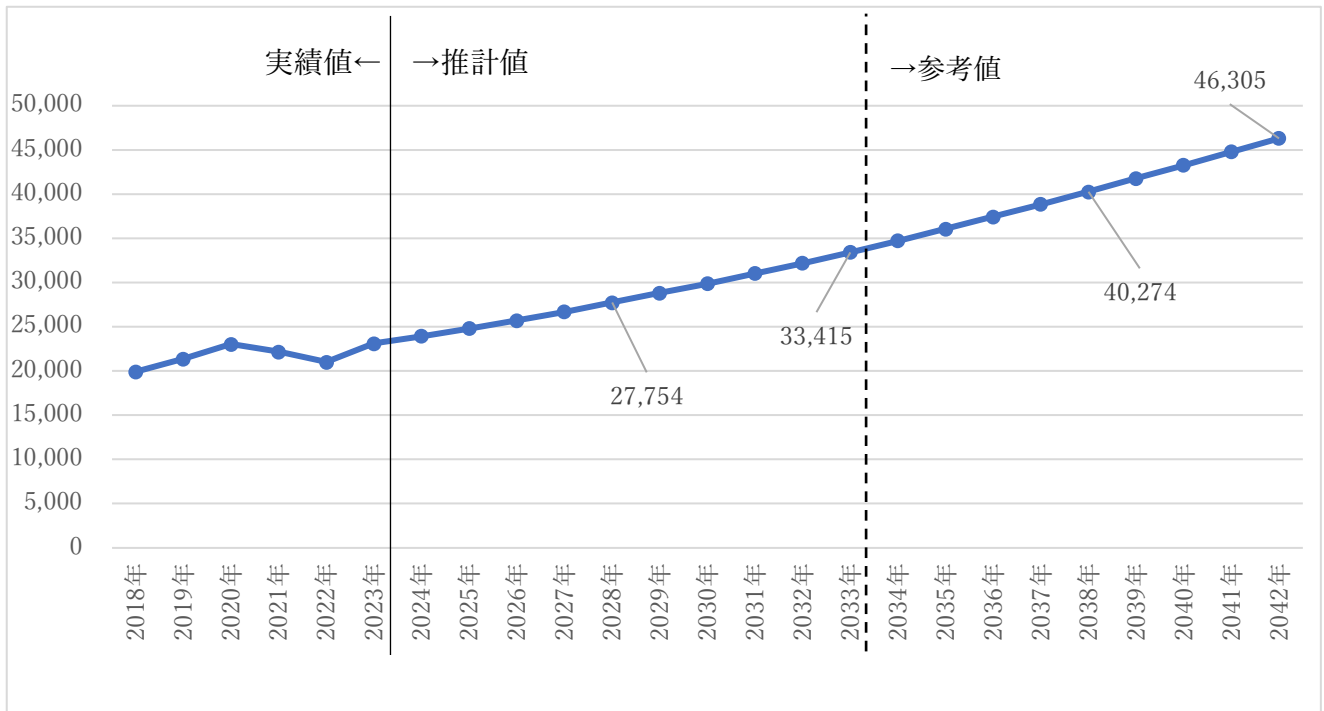


	令和5年 (2023年)	令和15年 (2033年)	令和25年 (2043年)	最大値	最小値
前期高齢者 (64歳～74歳)	83,844 (実績値)	103,645 (19,801)	127,380 (43,536)	<2042年> 128,220 (44,376)	<2025年> 80,767 (-3,077)
後期高齢者 (75歳以上)	102,890 (実績値)	109,794 (6,904)	126,393 (23,503)	<2048年> 142,698 (39,808)	<2024年> 105,987 (3,097)

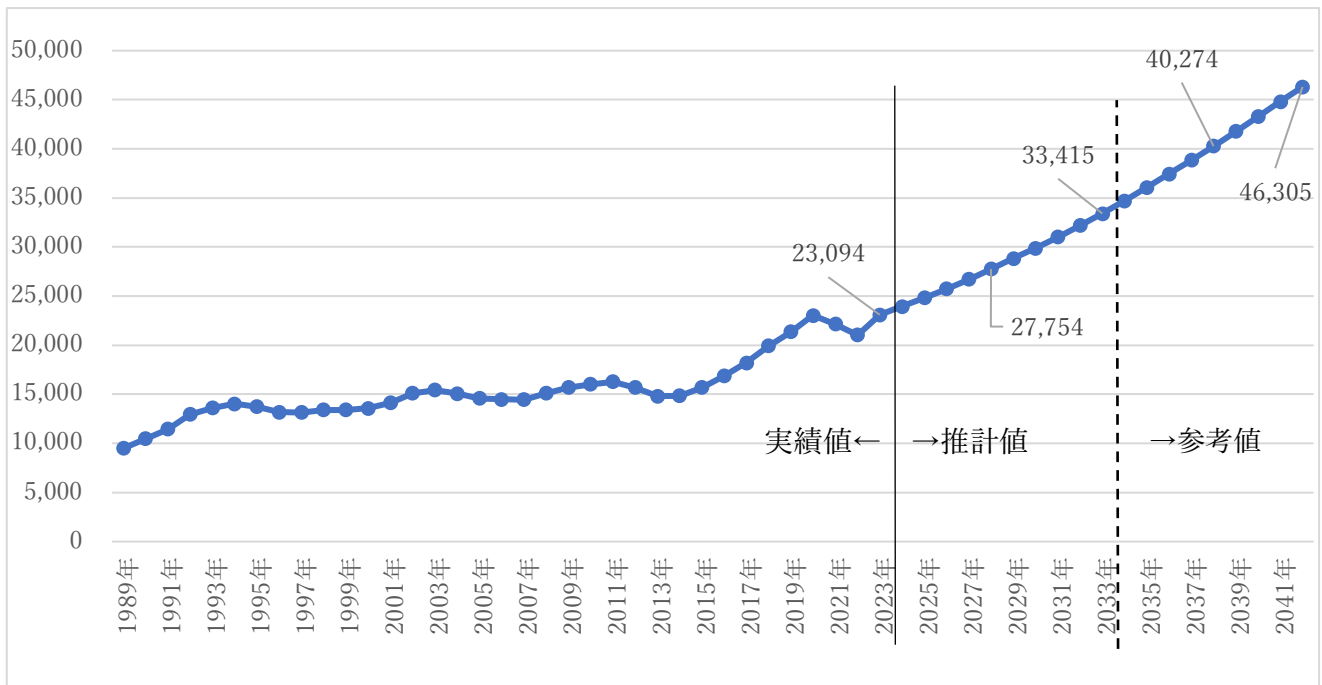
※()内の数字は令和5年(2023年)との差分を記載

(4) 外国人人口(参考)

図表 25 外国人人口の推移



図表 26 外国人人口の長期推移



Ⅲ 世田谷区将来人口推計に関する資料

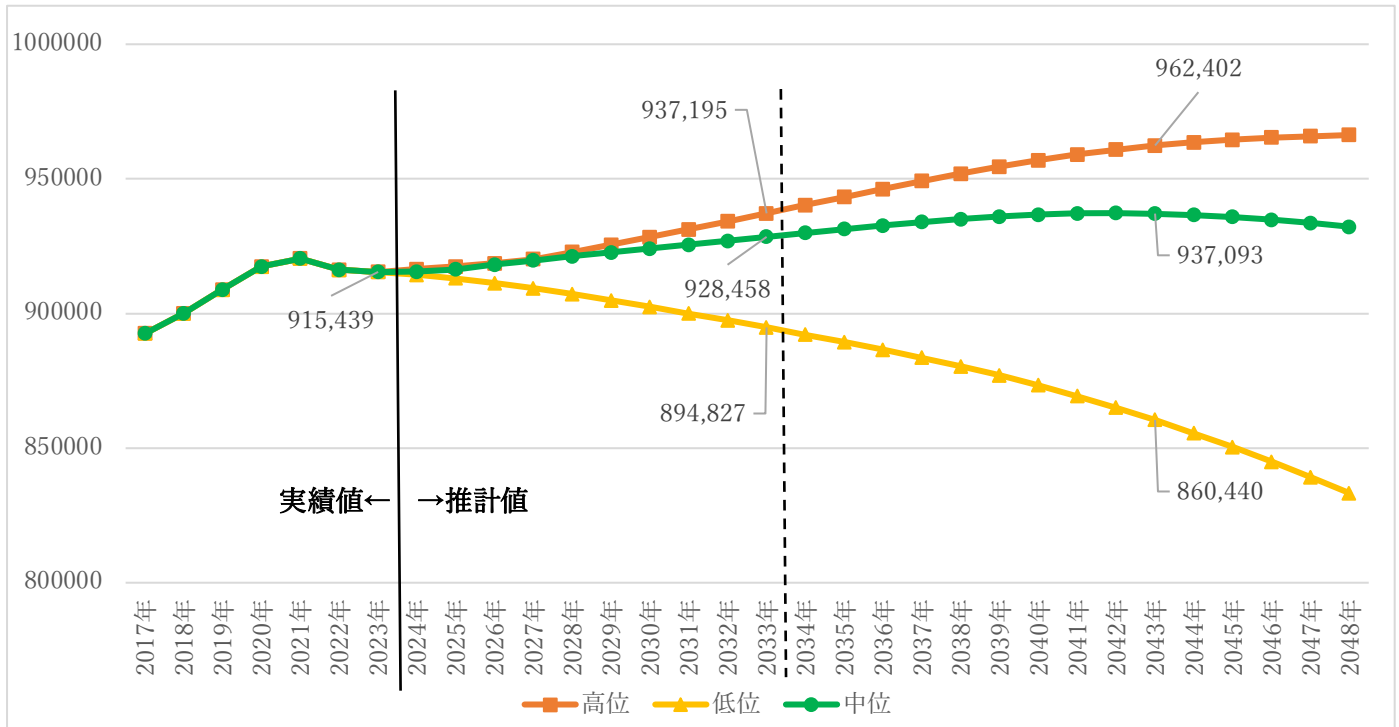
(1) 低位推計と高位推計

	出生	移動	推計結果	将来値の設定理由
低位推計	過去 8 年の子ども女性比の推移に基づき算出 (近似曲線：累乗式)	過去 3 年間の平均値	今後も 2020-2022 のコロナ禍の影響が続き、人口は減少する。	出生は、子ども女性比の低下傾向は続くものとし、過去 8 年の推移を採用。移動も、コロナ禍により変容した移動の状況が続くと考え、過去 3 年の平均値を採用。
中位推計 (再掲)	過去 1 年の子ども女性比の値	過去 5 年間の平均値	5 年かけてコロナ禍前の人口水準となり、19 年かけて増加し続け、その後減少に転じる。	出生は、コロナ禍以前より続く子ども女性比の傾向と、直近の婚姻数の減少を勘案し、子ども女性比は直近 1 年の値を採用。移動は令和 5 年に入り、転入超過の傾向があるため、過去 5 年間の平均値を採用。
高位推計	過去 5 年の子ども女性比の平均値	コロナ禍中の 1 年(2021-2022)とコロナ禍前の移動が大きかった 2 年(2018-2019 と 2019-2020) の平均値	5 年かけてコロナ禍前の人口水準となり、その後も増加し続ける。	出生は、区の子育て支援策の結果、出生数が徐々に増加すると想定。移動は、コロナ禍以前に近い増加傾向となりつつも、コロナ禍を機に変容した居住に関する人々の意識の影響は残るものと考え、コロナ禍とコロナ禍前の移動率の平均値を採用。

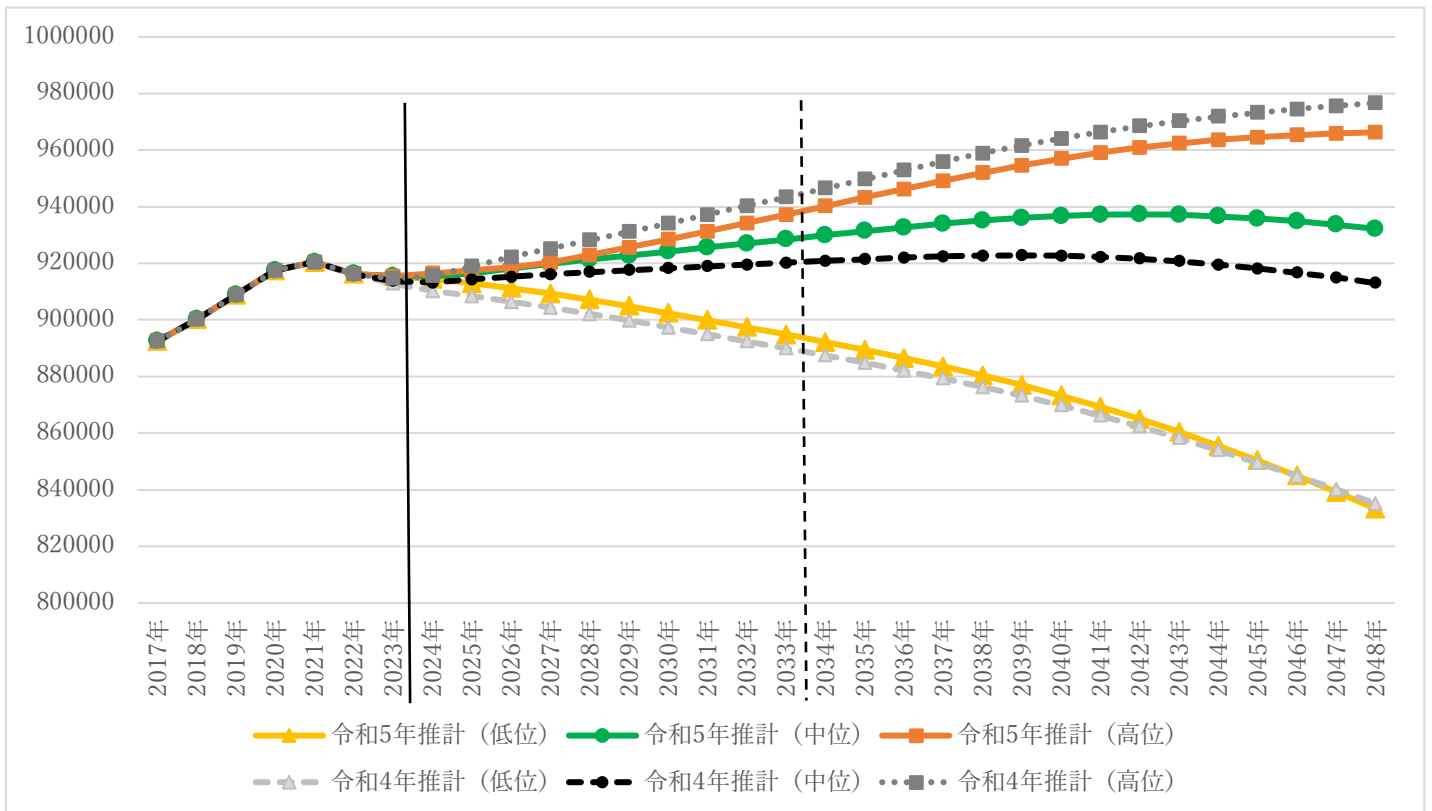
	令和 5 年 (2023 年)	令和 15 年 (2033 年)	令和 25 年 (2043 年)	最大値	最小値
高位推計	915,439 (実績値)	937,195 (21,756)	962,402 (46,963)	<2048 年> 966,274 (50,835)	<2024 年> 916,481 (1,042)
中位推計		928,458 (13,019)	937,093 (21,654)	<2042 年> 937,270 (21,831)	<2024 年> 915,515 (76)
低位推計		894,827 (-20,612)	860,440 (-54,999)	<2024 年> 914,398 (-1,041)	<2048 年> 833,303 (-82,136)

※()内の数字は令和 5 年(2023 年)との差分を記載

図表 27 将来人口推計(低位・中位・高位)

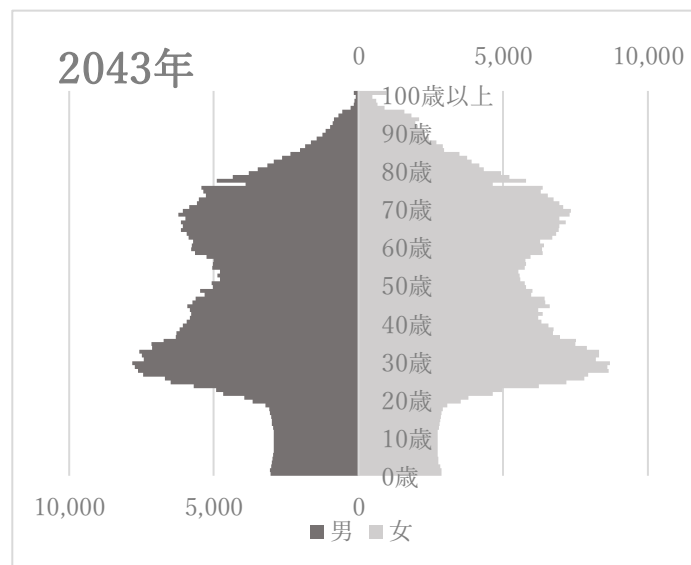
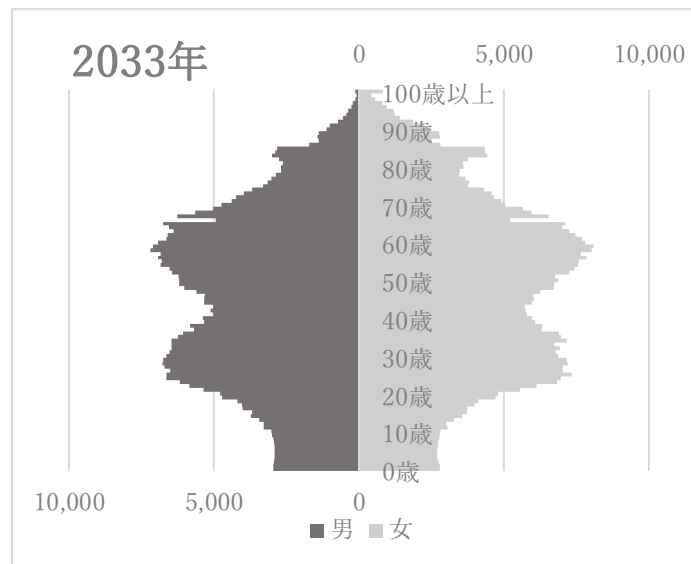
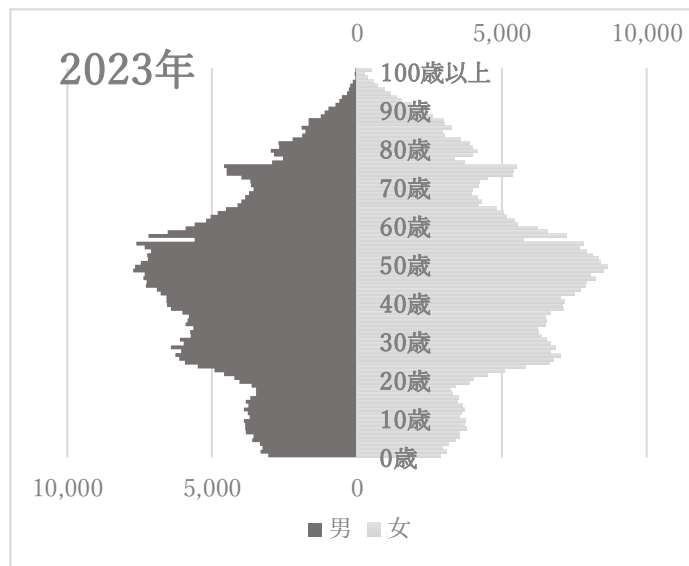


図表 28 令和4年将来人口推計との比較



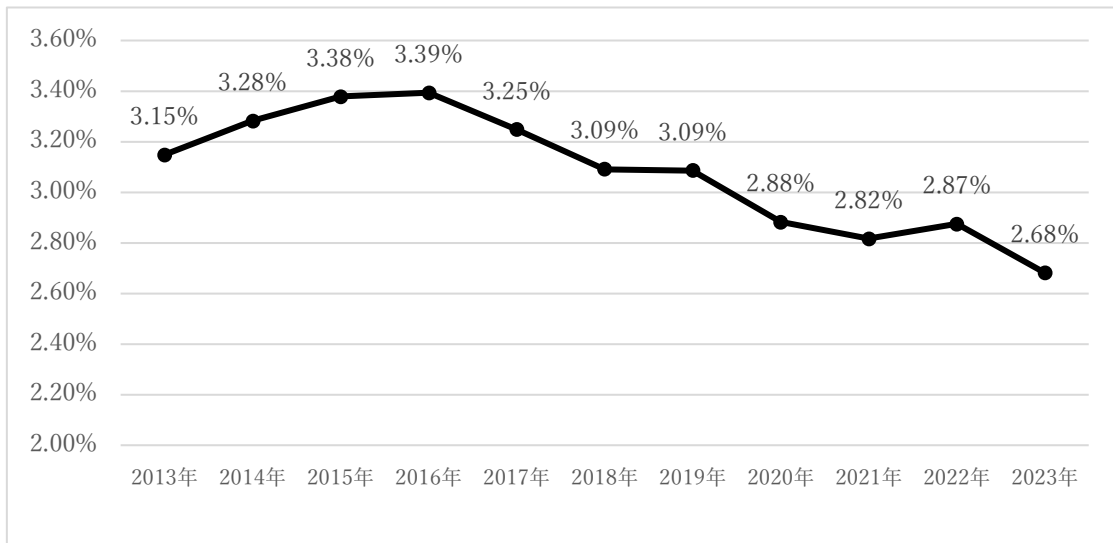
(2) 人口ピラミッド

図表 29 人口ピラミッドの変化(中位推計)

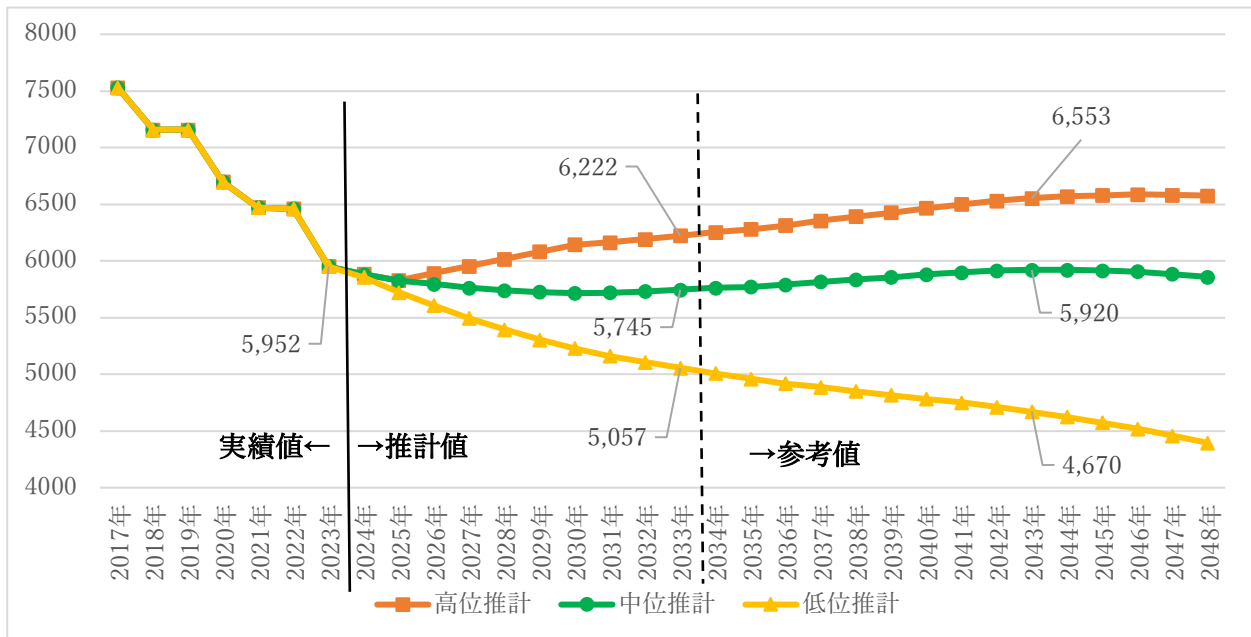


(3) 子ども女性比

図表 30 子ども女性比推移



図表 31 0歳児の推移(低位・中位・高位)

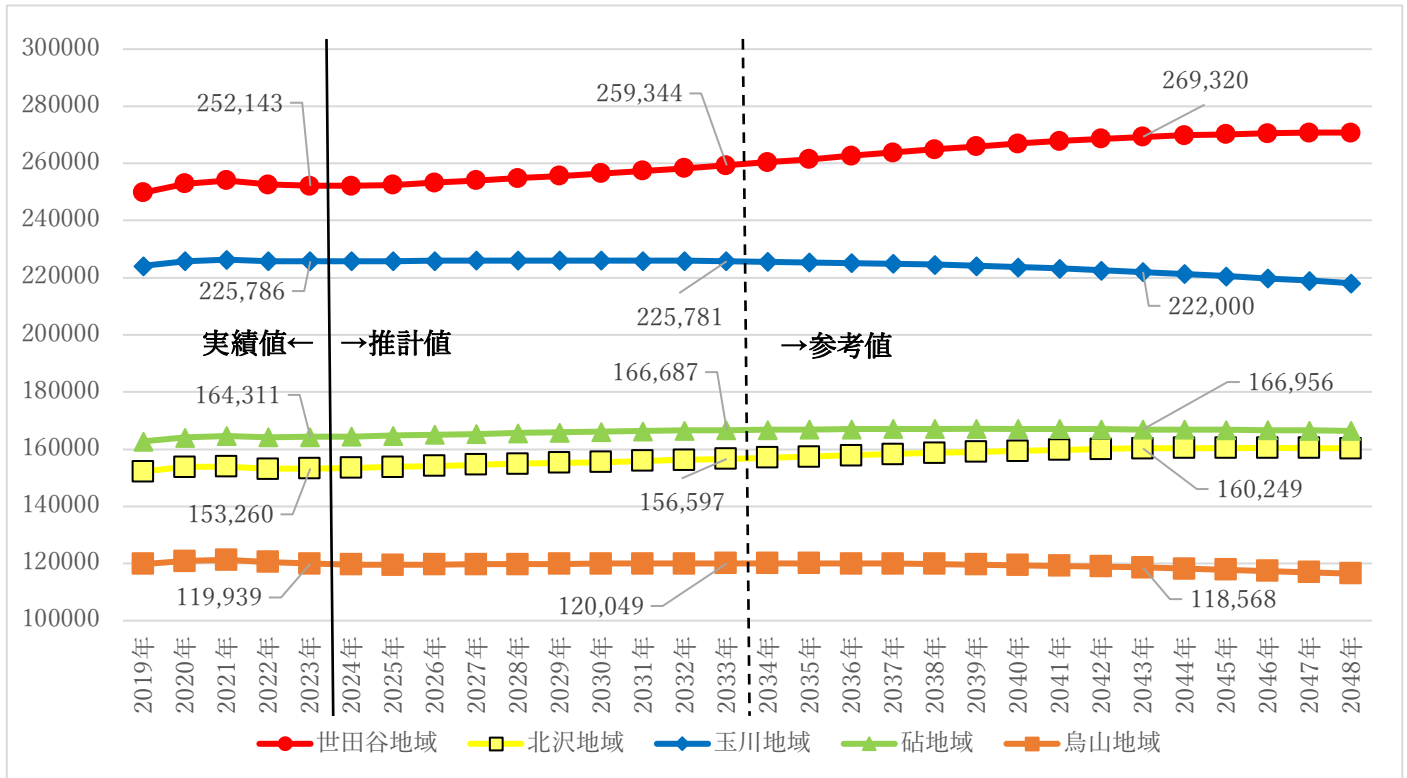


	令和5年 (2023年)	令和15年 (2033年)	令和25年 (2043年)	最大値	最小値
高位推計		6,222 (270)	6,553 (601)	<2046年> 6,587 (635)	<2025年> 5,828 (-124)
中位推計	5,952 (実績値)	5,745 (-207)	5,920 (-32)	<2044年> 5,921 (-31)	<2030年> 5,716 (-236)
低位推計		5,057 (-895)	4,670 (-1,282)	<2024年> 5,857 (-95)	<2048年> 4,395 (-1,557)

※()内の数字は令和5年(2023年)との差分を記載

(4) 地域別将来人口推計

図表 32 地域別将来人口推計



※()内の数字は令和 5 年(2023 年)との差分を記載

	令和 5 年 (2023 年)	令和 15 年 (2033 年)	令和 25 年 (2043 年)	最大値	最小値
世田谷地域	252,143	259,344 (7,201)	269,320 (17,177)	<2048年> 270,805 (18,662)	<2024年> 252,143 (0)
北沢地域	153,260	156,597 (3,337)	160,249 (6,989)	<2046年> 160,459 (7,199)	<2024年> 153,508 (248)
玉川地域	225,786	225,781 (-5)	222,000 (-3,786)	<2028年> 226,102 (316)	<2048年> 218,091 (-7,695)
砧地域	164,311	166,687 (2,376)	166,956 (2,645)	<2039年> 167,141 (2,830)	<2024年> 164,477 (166)
烏山地域	119,939	120,049 (110)	118,568 (-1,371)	<2035年> 120,071 (132)	<2048年> 116,455 (-3,484)